姫 路 文 学 館 年 報

令和２年度(2020 年度)事業報告

第 29 号



第 22 回司馬遼太郎メモリアル・デー
「歴史小説とは何か－大佛次郎『天皇の世紀』と司馬遼太郎『坂の上の雲』を巡って－」
令和２年８月７日
パネルトーク
左から、辻原登氏（作家）、上村洋行氏（司馬遼太郎記念館長）





特別展「宮西達也 New ワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」
宮西達也さんスペシャルイベント
令和 2 年 8 月 20 日
『おまえうまそうだな』を演じる宮西達也氏（絵本作家）

特別展「樋口一葉　その文学と生涯 ―貧しく、切なく、いじらしく」
記念講演会「樋口一葉を読み直す―「たけくらべ」「にごりえ」を中心に」
令和 2 年 10 月 17 日
講師：山本欣司氏（武庫川女子大学教授）





企画展「没後 60 年記念　歌人岸上大作展」
オープニング記念　福島泰樹講演会「血と雨の歌 ―没後六十年を迎えた岸上大作」
令和 2 年 12 月 5 日
講師：福島泰樹氏（歌人）

第 6 回藤原正彦エッセイコンクール表彰式
（無観客・オンライン開催）
令和 3 年 1 月 23 日
清元秀泰姫路市長より表彰状の授与。
スクリーンに映っているのは、藤原正彦姫路文学館長、各部門受賞者のみなさん。オンラインで出席。



入館時の検温・手指消毒確認シール（コロナウイルス感染症対策として実施）



右期間以外で使用



宮西達也展会期中（令和2年 7 月10日～9月6日）に使用



樋口一葉展会期中（令和2年10 月3日～11月23日）に使用



岸上大作展会期中（令和2年12月 5日～令和3年3月21日）に使用

第33回和辻哲郎文化賞授賞式
（無観客開催・ライブ配信）
令和３年３月７日
左から、田中富美子姫路文学館副館長（一般部門受賞者のオンライン参加による花束贈呈)、松田克彦姫路市教育長、清元秀泰姫路市長、学術部門受賞者 宮本久雄氏、
木村達夫姫路市議会議長、和辻龍氏。
スクリーンに映っているのは、一般部門受賞者のサンドラ・シャール氏。





第33回和辻哲郎文化賞　受賞者
令和３年３月７日
学術部門受賞者 宮本久雄氏（左）
一般部門受賞者 サンドラ・シャール氏（スクリーン ドイツからオンラインで出席）

第９回 KOTOBA まつり
人形劇「でこぼこげきじょう」
令和３年３月 21 日
出演：人形劇団京芸



ごあいさつ

姫路文学館は、平成３年４月に開館して以来、30年間にわたり、郷土の文学遺産を支え、文化的土壌を育むべく多彩な事業を実施してまいりました。令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、５月末まで休館し、春に予定していた特別展「猫のダヤン35周年ダヤンと不思議な劇場　池田あきこ原画展」が翌年度に延期となったほか、夏季大学、ボランティア活動についても中止・縮小が続きました。このような状況の中、館の運営を見守り、ご来館、ご協力、励ましをいただいた多くの皆様に、深く感謝申し上げます。

令和２年度は、「おまえうまそうだな」や「おとうさんはウルトラマン」シリーズなど数々の人気作を生み出している絵本作家・宮西達也氏の原画展「宮西達也Newワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」、樋口一葉の生涯を辿り、同時代に活躍した女性を紹介した「樋口一葉　その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく」の２つの特別展を開催しました。

さらに企画展として、神崎郡福崎町出身の夭折の歌人岸上大作を偲ぶ「没後60年記念　歌人岸上大作展」を開催しました。

33回目を迎えた和辻哲郎文化賞は、一般部門にサンドラ・シャール氏、学術部門に宮本久雄氏のご労作が受賞作に選ばれました。授賞式は感染症対策として無観客で開催し、オンラインで一般公開しました。

令和２年度は、コロナ禍を通して、様々な課題が浮き彫りとなった一方、新たな可能性に気づかされた一年でもありました。未だ新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見えない状況ですが、この経験を生かし、皆様の大切な学びの場であり続けるよう工夫しながら運営してまいりたいと思います。今までと変わらぬご厚情とともに、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和３年９月

館長　藤原正彦

目　次

ごあいさつ 5
目　次 6
第33回和辻哲郎文化賞 7
事業報告
1　展覧会
（1）特別展「宮西達也Newワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」 12
（2）特別展「樋口一葉　その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく」 18
（3）企画展「没後60年記念　歌人岸上大作展」 24
（4）全国文学館協議会共同展〈3.11文学館からのメッセージ〉 30
2　夏季大学 31
3　第22回司馬遼太郎メモリアル・デー 31
4　第６回藤原正彦エッセイコンクール 32
5　第９回「世界にひとつの絵本づくり」 33
6　第９回ＫＯＴＯＢＡまつり 34
7　第12回如月まつり 34
8　講座・読書会
（1）古典文学講座「源氏物語の世界」 35
（2）文学思想講座「よりよく自己を生きるために　「ひと」が「生きる」」 35
（3）市民名作講座「「近現代文学中の名作」に挑む」 36
（4）「司馬遼太郎の「覇王の家」「燃えよ剣」「街道をゆく」「この国のかたち」などを読む」読書会 36
9　博物館実習・「トライやる・ウィーク」 37
10　出前講座 38
11　出版活動 38
12　姫路文学館コンサート 39
資料概要
1　資料収集状況 40
2　協力者一覧 41
3　文学館資料の貸出状況 43
4　文学館資料の出版物等掲載状況 43
運営管理
1　利用状況 44
（1）入館者数 44
（2）施設見学受付状況 46
（3）館使用者数 47
（4）資料特別観覧申請 48
（5）出版物等販売数 49
2　組織および分掌事務 50
3　予算の概要 51
施設の概要 52
日誌抄 56
姫路文学館友の会 58
沿革 60
条例規則集 61
利用案内 69

第33回 和辻哲郎文化賞

姫路市制百周年と姫路出身の哲学者和辻哲郎の生誕百年を記念して、昭和63年度に姫路市が創設。和辻哲郎の幅広い学的業績を顕彰し、その著作の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資することを目的とする。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術など、さまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられる。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた論文に与えられる。

授賞式典は和辻哲郎の生誕日が３月１日であることに因み、３月の第一日曜日に姫路にて開催する。

1　対　象

〇一般部門

令和元年（2019年）９月１日から令和２年（2020年）８月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活の関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性を有する評論。

〇学術部門

令和元年（2019年）９月１日から令和２年（2020年）８月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

2　募集方法

自薦・他薦を問わず、推薦作を一般に募る。また全国の大学等研究機関、新聞社、出版社、研究者等にも推薦を依頼する。締切は令和２年（2020年）９月４日。

3　選考委員

〇一般部門

阿刀田　高（作家）
辻原　　登（作家）
山内　昌之（東京大学名誉教授）

〇学術部門

野家　啓一（東北大学名誉教授）
関根　清三（東京大学名誉教授）
黒住　　眞（東京大学名誉教授）

令和３年1月に選考委員会を開催し、受賞作を決定した。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防として、オンライン会議システムを併用して開催した。

〇一般部門　選考委員会

令和３年１月16日開催。会場：學士会館（オンライン会議を併用）

〇学術部門　選考委員会

令和３年１月15日開催。方法：オンライン会議

4　推薦会

選考手続の補助として、令和２年度は以下の諸氏による推薦会を実施した。

〇一般部門

大森　亮尚（古代民俗研究所代表）
石川　　肇（国際日本文化研究センター助教）

大塚　健洋（姫路獨協大学教授）
岡田　勝明（姫路獨協大学教授）
塩出　　雅（武庫川女子大学名誉教授）
佐野真由子（京都大学大学院教授）
島村　恭則（関西学院大学教授）
通山　由美（姫路獨協大学教授）
早川　聞多（国際日本文化研究センター名誉教授）
林　裕美子（エリザベト音楽大学教授）

○学術部門

荒谷　大輔（江戸川大学教授）
植村恒一郎（群馬県立女子大学名誉教授）
中島　隆博（東京大学東洋文化研究所教授）
三重野清顕（東洋大学教授）
賴住　光子（東京大学大学院教授）

９月～12月にかけて全３回の推薦会を開催し、選考委員会に推薦する最終候補作５点を選考する作業を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防として、オンライン会議システムを併用して開催した。

○一般部門　推薦会

第１回　　令和２年９月16日開催　会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）
第２回　　令和２年11月９日開催　会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）
第３回　　令和２年12月３日開催　会場：姫路文学館（オンライン会議を併用）

○学術部門　推薦会

第１回　　令和２年９月28日開催　方法：オンライン会議
第２回　　令和２年11月12日開催　会場：學士会館（オンライン会議を併用）
第３回　　令和２年12月６日開催　方法：オンライン会議

５　賞

○正　賞　　蒔絵千姫源氏絵羽子板
（千姫が男山の天満神社に奉納したという羽子板を模した蒔絵漆芸品）
○副　賞　　100万円

第33回和辻哲郎文化賞受賞作

○一般部門

サンドラ・シャール（ストラスブール大学言語学部日本学科教授、京都大学大学院文学研究科特任教授）
『『女工哀史』を再考する　―失われた女性の声を求めて』（令和２年２月20日刊　京都大学学術出版会）
日本近代化の犠牲者として悲観的に語られてきた製糸工場で働く女工の生活史を、彼女たちの仕事歌の分析と、直接語られた経験によって捉え直し、自身の労働に達成や充実といった主体的な価値を見出そうとした女性の姿に光をあてた作品。

○学術部門

宮本久雄（東京純心大学看護学部教授）
『パウロの神秘論　他者との相生の地平をひらく』
（令和元年12月20日刊　東京大学出版会）
新約聖書に収められたパウロの書簡から神秘論について独自の解釈を行い、それをキリスト教の枠を超えた人類的な共生の思想へとつないだ意欲作。



応募点数の実績

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
一般部門	56	72	81	97	149	135	132	177	204	206	170	153	124	108	89
学術部門	10	22	41	70	61	62	77	75	125	87	99	63	79	83	72
合　計	66	94	122	167	210	197	209	252	329	293	269	216	203	191	161

	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	29回	30回
一般部門	98	102	110	105	101	90	109	95	98	115	111	123	132	138	130
学術部門	58	53	51	55	74	61	89	66	56	74	93	63	82	71	95
合　計	156	155	161	160	175	151	198	161	154	189	204	186	214	209	225

	31回	32回	33回
一般部門	150	108	119
学術部門	70	86	70
合　計	220	194	189

第33回和辻哲郎文化賞授賞式

毎年３月の第１日曜日に開催し、式典と著名な作家等を招いての記念講演会を催す。第33回は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、無観客開催（ライブ配信）となった。

日　時　　令和３年３月７日（日）　午後1時30分～４時
会　場　　あいめっせホール（無観客開催・ライブ配信）
内　容　　《第１部》授賞式典
　　選考経過　辻原　登（一般部門）
　　関根清三（学術部門）
　　《第２部》記念講演会
　　講師／保阪正康（ノンフィクション作家・評論家）
　　演題／近現代史を見つめる目、語る言葉
授賞式典アーカイブ配信URL
　　https://www.youtube.com/watch?v=JD1QLxex6uc


保阪正康氏（ライブ配信）

これまでの受賞作

第１回（昭和63年度）
　一般部門　大久保喬樹『岡倉天心　驚異的な光に満ちた空虚』（小沢書店）
　学術部門　ウィリアム・R・ラフルーア「廃墟に立つ理性－戦後合理性論争における和辻哲郎の位相」（『戦後日本の精神史』（岩波書店）所収）
第２回（平成元年度）
　一般部門　宇佐美斉　『落日論』（筑摩書房）
　学術部門　上山安敏　『フロイトとユング－精神分析運動とヨーロッパ知識社会』（岩波書店）
第３回（平成２年度）
　一般部門　中西　進　『万葉と海彼』（角川書店）

学術部門　永積洋子　『近世初期の外交』（創文社）

第４回（平成３年度）

一般部門　野口武彦　『江戸の兵学思想』（中央公論社）

学術部門　ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』（ぺりかん社）

第５回（平成４年度）

一般部門　郡司正勝　『郡司正勝刪定集』全六巻（白水社）

学術部門　大森荘蔵　『時間と自我』（青土社）

第６回（平成５年度）

一般部門　土居良三　『咸臨丸海を渡る－曽祖父・長尾幸作の日記より』（未來社）

学術部門　加藤尚武　『哲学の使命　ヘーゲル哲学の精神と世界』（未來社）

第７回（平成６年度）

一般部門　堀田善衞　『ミシェル城館の人』全三巻（集英社）

〃　山内　昶　『「食」の歴史人類学－比較文化論の地平』（人文書院）

学術部門　関根清三　『旧約における超越と象徴　解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会）

第８回（平成７年度）

一般部門　井上義夫　『評伝　D．H．ロレンス』全三巻（小沢書店）

学術部門　阿部良雄　『シャルル・ボードレール【現代性の成立】』（河出書房新社）

第９回（平成８年度）

一般部門　長谷川三千子『バベルの謎　ヤハウィストの冒険』（中央公論社）

学術部門　小野清美　『テクノクラートの世界とナチズム－「近代超克」のユートピア－』（ミネルヴァ書房）

第10回（平成９年度）

一般部門　徳永　恂　『ヴェニスのゲットーにて　反ユダヤ主義思想史への旅』（みすず書房）

学術部門　一ノ瀬正樹『人格知識論の生成－ジョン・ロックの瞬間』（東京大学出版会）

第11回（平成10年度）

一般部門　嶋田義仁　『稲作文化の世界観　「古事記」神代神話を読む』（平凡社）

学術部門　佐々木毅　『プラトンの呪縛－二十世紀の哲学と政治』（講談社）

第12回（平成11年度）

一般部門　西村三郎　『文明のなかの博物学　西欧と日本』（紀伊國屋書店）

〃　渡辺京二　『逝きし世の面影　日本近代素描Ⅰ』（葦書房）

学術部門　宇都宮芳明『カントと神　理性信仰・道徳・宗教』（岩波書店）

第13回（平成12年度）

一般部門　稲賀繁美　『絵画の東方　オリエンタリズムからジャポニスムへ』（名古屋大学出版会）

学術部門　小林道夫　『デカルト哲学とその射程』（弘文堂）

第14回（平成13年度）

一般部門　岡野弘彦　『折口信夫伝　その思想と学問』（中央公論新社）

〃　山折哲雄　『愛欲の精神史』（小学館）

学術部門　ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略　儒学と史論』（東京大学出版会）

第15回（平成14年度）

一般部門　長部日出雄『桜桃とキリスト　もう一つの太宰治伝』（文藝春秋）

学術部門　木村　敏　『木村敏著作集第七巻　臨床哲学論文集』（弘文堂）

〃　植村恒一郎『時間の本性』（勁草書房）

第16回（平成15年度）

一般部門　秋山　駿　『神経と夢想　私の『罪と罰』』（講談社）

学術部門　塩川徹也　『パスカル考』（岩波書店）

第17回（平成16年度）

一般部門　平川祐弘　『ラフカディオ・ハーン　植民地化・キリスト教化・文明開化』（ミネルヴァ書房）

学術部門　井上達夫　『法という企て』（東京大学出版会）

第18回（平成17年度）
一般部門　新倉俊一　『評伝　西脇順三郎』（慶應義塾大学出版会）
学術部門　佐藤康邦　『カント『判断力批判』と現代－目的論の新たな可能性を求めて－』（岩波書店）
第19回（平成18年度）
一般部門　大泉光一　『支倉常長　慶長遣欧使節の真相－肖像画に秘められた実像－』（雄山閣）
学術部門　今道友信　『美の存立と生成』（ピナケス出版）
第20回（平成19年度）
一般部門　岩下尚史　『芸者論　神々に扮することを忘れた日本人』（雄山閣）
学術部門　伊藤邦武　『パースの宇宙論』（岩波書店）
第21回（平成20年度）
一般部門　岡谷公二　『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久助・杉浦佐助・中島敦』（冨山房インターナショナル）
学術部門　森　一郎　『死と誕生　ハイデガー・九鬼周造・アーレント』（東京大学出版会）
第22回（平成21年度）
一般部門　今橋理子　『秋田蘭画の近代　小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会）
学術部門　互　盛央　『フェルディナン・ド・ソシュール　〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』（作品社）
第23回（平成22年度）
一般部門　杉田弘子　『漱石の『猫』とニーチェ　稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』（白水社）
学術部門　権左武志　『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』（岩波書店）
第24回（平成23年度）
一般部門　末延芳晴　『正岡子規、従軍す』（平凡社）
学術部門　中畑正志　『魂の変容　心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店）
第25回（平成24年度）
一般部門　劉　岸偉　『周作人伝　ある知日派文人の精神史』（ミネルヴァ書房）
　　安住恭子　『『草枕』の那美と辛亥革命』（白水社）
学術部門　中島隆博　『共生のプラクシス　国家と宗教』（東京大学出版会）
第26回（平成25年度）
一般部門　池田美紀子『夏目漱石　眼は識る東西の字』（国書刊行会）
学術部門　野本和幸　『フレーゲ哲学の全貌　論理主義と意味論の原型』（勁草書房）
第27回（平成26年度）
一般部門　亀井俊介　『有島武郎　世間に対して真剣勝負をし続けて』（ミネルヴァ書房）
学術部門　稲垣良典　『トマス・アクィナスの神学』（創文社）
　　『トマス・アクィナス　「存在」の形而上学』（春秋社）
第28回（平成27年度）
一般部門　勝又　浩　『私小説千年史　日記文学から近代文学まで』（勉誠出版）
学術部門　佐藤　光　『柳宗悦とウィリアム・ブレイク　環流する「肯定の思想」』（東京大学出版会）
第29回（平成28年）
一般部門　山口謡司　『日本語を作った男　上田万年とその時代』（集英社インターナショナル）
学術部門　野矢茂樹　『心という難問　空間・身体・意味』（講談社）
第30回（平成29年度）
一般部門　保阪正康　『ナショナリズムの昭和』（幻戯書房）
学術部門　竹峰義和　『〈救済〉のメーディウム　ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』（東京大学出版会）
第31回（平成30年度）
一般部門　平川　新　『戦国日本と大航海時代　秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）
学術部門　石川　求　『カントと無限判断の世界』（法政大学出版局）
第32回（平成31年度／令和元年度）
一般部門　白川方明　『中央銀行　セントラルバンカーの経験した39年』（東洋経済新報社）
学術部門　松井裕美　『キュビスム芸術史　20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』（名古屋大学出版会）

事　業　報　告

1　展覧会

令和２年４月18日（土）から６月７日（日）までの開催を予定していた特別展「猫のダヤン35周年　ダヤンと不思議な劇場　池田あきこ原画展」が、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための緊急事態宣言を受けて延期となった。

（1）　特別展「宮西達也Newワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」



『おまえうまそうだな』にはじまるティラノサウルスシリーズや「おとうさんはウルトラマン」シリーズなど、数々のベストセラーを世に送りだしている絵本作家・宮西達也さん。本展では宮西さんの絵本原画や、作中の風景を再現した巨大ジオラマ、オブジェなどを展示し、宮西作品の世界を紹介した。世代を超えたたくさんの愛読者が来館し、絵本に登場するユニークなキャラクターたちと、そのあざやかでポップな色彩、温かな筆致を堪能していただいた。

本展は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため約３ヶ月にわたる臨時休館後に当初の開幕予定日（６月27日）を変更し開幕。入館者の検温や入場制限、三密の回避、非接触にこだわった展示の仕組み、読書コーナーの絵本の消毒など、各種対策を講じて開催した。宮西さんが出演されたイベントでは、元気いっぱいの演出と共に、コロナ禍の中でも人間同士のつながりを大切にしたいというメッセージが伝えられ、温もりと癒しを届けた展覧会となった。

会　　期　　令和２年７月10日（金）～９月６日（日）
　　※休館日：毎週月曜日（８月10日は開館）、８月11日（火）
会　　場　　姫路文学館　北館
観 覧 料　　一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円
　　※20名以上の団体は２割引
主　　催　　姫路文学館
協　　力　　アリス館、岩崎書店、えほんの杜、学研プラス、教育画劇、金の星社、鈴木出版、チャイルド社、ひさかたチャイルド、フレーベル館、ポプラ社、ほるぷ出版、メイト、円谷プロダクション
企画協力　　TATSU屋CORPORATION
企画制作　　コスモマーチャンダイズィング
後　　援　　朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞社姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数　　51日間
観覧者数　　7,128人
出 品 数　　約180件
印刷物等　　ポスターA３、B２、B３／チラシA４

水屋珈琲（南館１階）提供コラボメニュー
「あかいみレスカ」「あかいみソーダフロート」






展 示 風 景

関連行事

（１）宮西達也さんサプライズイベント
　　館内放送で開催を案内し、館内に居合わせた観覧者が随時イベントに参加。
日時　　令和２年７月10日（金）午後、11日（土）終日
会場　　企画展示室・特別展示室・交流ひろば
内容　　ギャラリートーク・ミニ講演＆絵本のよみきかせ会・ライブペイント・サイン会



ライブペイントの様子

（２）宮西達也さんスペシャルイベント
日時　　令和２年８月19日（水）、20日（木）、21日（金）
会場　　講堂・特別展示室
内容　　ギャラリートーク・ミニ講演&絵本のよみきかせ会
　　・ライブペイント・サイン会
参加者　203人（事前申込・各回あわせて）



参加者の質問に答える宮西達也氏



ライブペイント作品

出　品　目　録

タイトル		材質	出版年	出版社
導入				
ポスター用原画		色鉛筆、インク、クーピーペンシル・紙	2015	（オリジナル）
「いとしのカラータイマー」ダミー本				
「いとしのカラータイマー」ラフスケッチ	（下絵 1）			
「いとしのカラータイマー」ラフスケッチ	（下絵 2）			
「いとしのカラータイマー」（表紙）				
「いとしのカラータイマー」（シュワッチッ！）				
「いとしのカラータイマー」（ガガガ……、ドドド……）				
ZONE 1　初期作品とシンプルの原点				
紙芝居「ぼくはみたんだ」－1		墨・ボード	1980 年代	
紙芝居「ぼくはみたんだ」－2		墨・ボード	1980 年代	
「あるひおねえちゃんは」－1	表 1・表 4	墨・ボード	1983 年	フレーベル館
「あるひおねえちゃんは」－2		墨・ボード	1983 年	フレーベル館
「おにいちゃんはいいな」－1		墨・ボード/インク、鉛筆、カラーインク・トレーシングペーパー	1984 年	講談社
「おにいちゃんはいいな」－2		墨・ボード/インク、鉛筆、カラーインク・トレーシングペーパー	1984 年	講談社
「三角あき地のネコ人間」－1	表 4	色鉛筆、インク・紙	1988 年	岩崎書店
「三角あき地のネコ人間」－2	p13	インク・紙	1988 年	岩崎書店
「どうしたのぶたくん」－1	表 1・表 4	色鉛筆、インク、クーピーペンシル・紙	1987 年	鈴木出版
「どうしたのぶたくん」－2		色鉛筆、インク、クーピーペンシル・紙	1987 年	鈴木出版
「どうしたのブタくん」－1	表 1	色鉛筆、インク、クーピーペンシル・紙	2013 年	鈴木出版
「どうしたのブタくん」－2	p18−19	色鉛筆、インク、クーピーペンシル・紙	2013 年	鈴木出版
「にゃーご」－1 『こどものくに　ひまわり版』第 22 巻第 4 号 1997 年単行本化、2003 年大型絵本化	p6−7	インク、クーピーペンシル・紙	1988 年	鈴木出版
「にゃーご」－2 『こどものくに　ひまわり版』第 22 巻第 4 号 1997 年単行本化、2003 年大型絵本化	p18−19	インク、クーピーペンシル・紙	1988 年	鈴木出版
「おっぱい」－1	扉・裏扉	インク・紙/インク、色鉛筆・トレーシングペーパー	1989 年	鈴木出版
「おっぱい」－2	扉・裏扉	指定	1989 年	鈴木出版
「うんこ」－1	表 1・表 4	インク・紙/インク、色鉛筆・トレーシングペーパー	1991 年	鈴木出版
「うんこ」－2	表 1・表 4	指定	1991 年	鈴木出版
「ウマソウのピョンピョンピョーン」－1	p20−21	基本 4 色	2008 年	ポプラ社
「ウマソウのピョンピョンピョーン」－2	p22−23	基本 4 色	2008 年	ポプラ社
「はらぺこヘビくん」－1	p6−7	基本 4 色	2006 年	ポプラ社
「はらぺこヘビくん」－2	p8−9	基本 4 色	2006 年	ポプラ社
「はらぺこヘビくん」－3	p18−19	基本 4 色	2006 年	ポプラ社
「はらぺこヘビくん」－4	p20−21	基本 4 色	2006 年	ポプラ社
「はーい！」-1　ねこ	p3	基本 4 色	2013 年	アリス館
「はーい！」-2　ねこ	p4−5	基本 4 色	2013 年	アリス館
「はーい！」-3　ぞう	p15	基本 4 色	2013 年	アリス館
「はーい！」-4　ぞう	p16−17	基本 4 色	2013 年	アリス館
「ばいばいいってきまーす」-1　かえる	p14-15	基本 4 色	2010 年	アリス館
「ばいばいいってきまーす」-2　かえる	p16-17	基本 4 色	2010 年	アリス館
「ばいばいいってきまーす」-3　たこ	p18-19	基本 4 色	2010 年	アリス館
「ばいばいいってきまーす」-4　たこ	p20-21	基本 4 色	2010 年	アリス館
ZONE2　ヘンテコリンな仲間たち				
「ぶたくんと 100 ぴきのおおかみ」-1 『こどものくに　チューリップ版』第 17 巻第 3 号 〈1991 年単行本化、2006 年大型絵本化〉	p6−7	インク、クーピーペンシル・紙	1989 年	鈴木出版
「ぶたくんと 100 ぴきのおおかみ」- 4 『こどものくに　チューリップ版』第 17 巻第 3 号 〈1991 年単行本化、2006 年大型絵本化〉	p22−23	インク、クーピーペンシル・紙	1989 年	鈴木出版
「はらぺこおおかみと ぶたの まち」-1 『こどものくに　ひまわり版』第 27 巻第 5 号 〈1994 年単行本化、2007 年大型絵本化〉	p8-9	インク、水彩・紙	1993 年	鈴木出版
「はらぺこおおかみと ぶたの まち」-2 『こどものくに　ひまわり版』第 27 巻第 5 号 〈1994 年単行本化、2007 年大型絵本化〉	p10-11	インク、水彩・紙	1993 年	鈴木出版

タイトル		材質	出版年	出版社
「きょうは なんて うんが いいんだろう」-2	p14−15	基本 4 色	1997 年	鈴木出版
『こどものくに　ひまわり版』第 31 巻第 7 号				
〈1998 年単行本化、2010 年大型絵本化〉				
「きょうは なんて うんが いいんだろう」-3	p24−25	基本 4 色	1997 年	鈴木出版
『こどものくに　ひまわり版』第 31 巻第 7 号				
〈1998 年単行本化、2010 年大型絵本化〉				
「またまた さんせーい！」-3	p14−15	基本 4 色	2017 年	フレーベル館
「またまた さんせーい！」-4	p22−23	基本 4 色	2017 年	フレーベル館
「はなすもんかー！」-3	p12−13	インク、水彩・紙	1992 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 20 巻第 7 号				
〈1997 年単行本化、2007 年大型絵本化〉				
「はなすもんかー！」-4	p22−23	インク、水彩・紙	1992 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 20 巻第 7 号				
〈1997 年単行本化、2007 年大型絵本化〉				
「カエルくんの みずたまり」-3	p8−9	インク、水彩・紙	1994 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 22 巻第 5 号				
〈2007 年単行本化〉				
「カエルくんの みずたまり」-4	p16−17	インク、水彩・紙	1994 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 22 巻第 5 号				
〈2007 年単行本化〉				
「カエルくんのおひるね」-3	p16−17	インク、水彩・紙	1995 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 23 巻第 6 号				
〈2000 年単行本化〉				
「カエルくんのおひるね」-4	p20−21	インク、水彩・紙	1995 年	鈴木出版
『こどものくに　チューリップ版』第 23 巻第 6 号				
〈2000 年単行本化〉				
「カエルくんのたんこぶ」-3	p20−21	インク、水彩・紙	2015 年	鈴木出版
「カエルくんのたんこぶ」-4	p22−23	インク、水彩・紙	2015 年	鈴木出版
「ふしぎなキャンディーやさん」-1	表 1	基本 4 色	2006 年	金の星社
『おはなしメイト』第 24 巻第 7 号				
〈2007 年単行本化、2008 年大型絵本化〉				
「ふしぎなキャンディーやさん」-3	p22−23	基本 4 色	2006 年	金の星社
『おはなしメイト』第 24 巻第 7 号				
〈2007 年単行本化、2008 年大型絵本化〉				
「ふしぎなカサやさん」-1	表 1	基本 4 色	2016 年	金の星社
「ふしぎなカサやさん」-4	p16−17	基本 4 色	2016 年	金の星社
「かぶと三十郎　きみのために生きるの巻」-1	表 1	基本 4 色	2008 年	教育画劇
「かぶと三十郎　きみのために生きるの巻」-2	p12−13	基本 4 色	2008 年	教育画劇
「かぶと三十郎　明日に向かって飛べの巻」-1	表 1	基本 4 色	2009 年	教育画劇
「かぶと三十郎　明日に向かって飛べの巻」-2	p30−31	基本 4 色	2009 年	教育画劇
「かぶと四十郎　夕陽のカブトマンの巻」-1	表 1	基本 4 色	2010 年	教育画劇
「かぶと四十郎　夕陽のカブトマンの巻」-2	p32−33	基本 4 色	2010 年	教育画劇
「ちっちゃなトラック　レッドくん」−1	p2−3	基本 4 色	2010 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくん」−2	p10−11	基本 4 色	2010 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとピンクちゃん」-1	p4-5	基本 4 色	2014 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとピンクちゃん」-2	p20-21	基本 4 色	2014 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとイエローくん」-1	p10-11	基本 4 色	2015 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとイエローくん」-2	p31-32	基本 4 色	2015 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとグリーンくん」-1	p22−23	基本 4 色	2016 年	ひさかたチャイルド
「ちっちゃなトラック　レッドくんとグリーンくん」-2	p28−31	基本 4 色	2016 年	ひさかたチャイルド
「シニガミさん」−1	p8-9	基本 4 色	2010 年	えほんの社
「シニガミさん」−2	p30-31	基本 4 色	2010 年	えほんの社
「シニガミさん 2」−1	p6-7	基本 4 色	2012 年	えほんの社
「シニガミさん 2」−2	p30-31	基本 4 色	2012 年	えほんの社
「ドロドロドロンキーとゆうすいくん」−1	表 1	基本 4 色	2014 年	ポプラ社
「ドロドロドロンキーとゆうすいくん」−2	p28	基本 4 色	2014 年	ポプラ社
「ペンちゃんギンちゃん　おおきいのをつりたいね！」−1	p6−7	基本 4 色	2005 年	ポプラ社
「ペンちゃんギンちゃん　おおきいのをつりたいね！」−2	p30−31	基本 4 色	2005 年	ポプラ社
「ありんこのアリー」-1	p20−21	基本 4 色	2011 年	金の星社
「ありんこのアリー」-2	p32	基本 4 色	2011 年	金の星社
「せいぎのみかた　ドラフラ星人の巻」−1	表 1	基本 4 色	2010 年	学研プラス
				〈学研教育出版〉
「せいぎのみかた　ドラフラ星人の巻」−2	p30−31	基本 4 色	2010 年	学研プラス
				〈学研教育出版〉
「せいぎのみかた　ワンダーマンの巻」−1	表 1	基本 4 色	2012 年	学研プラス
				〈学研教育出版〉
「せいぎのみかた　ワンダーマンの巻」−2	p31−32	基本 4 色	2012 年	学研プラス
				〈学研教育出版〉
「ふじさんファミリー」−1	表 1	基本 4 色	2012 年	金の星社
「ふじさんファミリー」−2	p32	基本 4 色	2012 年	金の星社

タイトル		材質	出版年	出版社
「ニンジャさるとびすすけ」	表１	基本４色	2014 年	ほるぷ出版
「ニンジャさるとびすすけ」－しんだあとは？のまき	p30−31	基本４色	2014 年	ほるぷ出版
「ダダダダ ダディーマン」	表１	基本４色	2014 年	ポプラ社
「ダダダダダディーマン」ボテト星人の巻	p32−33	基本４色	2014 年	ポプラ社
「ヘンテコリシャンプー」－１	p4−5	基本４色	2015 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「ヘンテコリシャンプー」－２	p6−7	基本４色	2015 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「はらぺこへびくん」ダミー本				
「かぶと三十郎　明日に向って飛べの巻」ダミー本				
「シニガミさん　2」ダミー本				
「ありんこのアリー」ダミー本				
外国版絵本				
『おまえうまそうだな』（英・仏・中・韓）、『にゃーご』（中・韓）、『ちっちゃなトラック　レッドくんとグリーンくん』（仏）、『シニガミさん』（英）、『ぺんちゃんぎんちゃん　おおきいのつりたいね！』（中・韓）、『かえるくんのおひるね』（韓）、『はらぺこおおかみと ぶたの まち』（中）、『おかあさんだいすきだよ』（中）、『ヘンテコはみがきこ』（韓）、『ヘンテコリンシャンプー』（韓）、『はーい！』（中）、『あるひおねえちゃんは』（韓）				
ZONE３　「おとうさんはウルトラマン」シリーズ				
「おとうさんはウルトラマン」－１	表１・表４	特色４色	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン」－６	見返し	墨・紙	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン」おとうさんはつよい	p4−5	特色４色	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン」おとうさんはつよい	p4−5	墨・紙、トレーシングペーパー（４点１セット）	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン」 おとうさんはなかない/おとうさんはけがをおそれない	p14−15	特色４色	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン」 おとうさんはなかない/おとうさんはけがをおそれない	p14−15	墨・紙、トレーシングペーパー（４点１セット）	1996 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「かえってきたおとうさんはウルトラマン」	表１・表４	特色４色	1997 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「かえってきたおとうさんはウルトラマン」 おとうさんはやすまない 1/おとうさんはやすまない 2	p20−21	特色４色	1997 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「かえってきたおとうさんはウルトラマン」 おとうさんはやすまない 2	p22−23	特色４色	1997 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン/おとうさんの休日」－１	表１・表４	特色４色	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン/おとうさんの休日」 やすみのひのおとうさん	p18−19	特色４色	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「おとうさんはウルトラマン/おとうさんの休日」 やすみのひのおとうさん	p20−21	特色４色	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン」	表１・表４	特色４色	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン」パパはゆるさない	p23	墨・紙、トレーシングペーパー（４点１セット）	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン」パパはゆるさない	p22−23	特色４色	1999 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン/ママだってウルトラセブン」	表１・表４	特色４色	2001 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン/ママだってウルトラセブン」 ママのしあわせ	p38−39	特色４色	2001 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン/ママだってウルトラセブン」 ママのしあわせ	p40	特色４色	2001 年	学研プラス 〈学研教育出版〉
「パパはウルトラセブン/みんなのおうち」	表１・表４	特色４色	2003 年	学研プラス 〈学習研究社〉
「パパはウルトラセブン/みんなのおうち」 パパはおもってる/パパはたたかっている	p4−5	特色４色	2003 年	学研プラス 〈学習研究社〉
「パパはウルトラセブン/みんなのおうち」 パパはたたかっている/パパがかえってきた	p8−9	特色４色	2003 年	学研プラス 〈学習研究社〉
「はじめてのおとうさんはウルトラマン」-1	表１・表４	特色４色	2016 年	学研プラス
「はじめてのおとうさんはウルトラマン」-2	p32−33	特色４色	2016 年	学研プラス
「はじめてのおとうさんはウルトラマン」-3	p34−35	特色４色	2016 年	学研プラス
「おとうさんはウルトラマン」ダミー本				
「おとうさんはウルトラマン」制作過程（色指定）				
「パパはウルトラセブン」ダミー本				
「帰ってきたおとうさんはウルトラマン」ダミー本				
オブジェ　「ウルトラマン（カラータイマー点滅式）」（『おとうさんはウルトラマン』より）				
ZONE４　ティラノサウルスシリーズ				
「おまえうまそうだな」－１	表１	特色４色	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－２	表１	墨・紙（4-1）	2003 年	ポプラ社

タイトル		材質	出版年	出版社
「おまえうまそうだな」－3	表 1	墨・トレーシングペーパー（4-2）黄版	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－4	表 1	墨・トレーシングペーパー（4-3）青版	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－5	表 1	墨・トレーシングペーパー（4-4）赤版	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－6	p4−5	特色４色	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－7	p4−5	墨・紙、トレーシングペーパー（4 点 1 セット）	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－8	p12−13	特色４色	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－9	p12−13	墨・紙、トレーシングペーパー（4 点 1 セット）	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－10	p20−21	特色４色	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－11	p20−21	墨・紙、トレーシングペーパー（4 点 1 セット）	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－12	p34−35	特色４色	2003 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」－13	p34−35	墨・紙、トレーシングペーパー（4 点 1 セット）	2003 年	ポプラ社
「おれはティラノサウルスだ」－1		特色４色	2004 年	ポプラ社
「おれはティラノサウルスだ」－2	p36−37	特色４色	2004 年	ポプラ社
「きみはほんとうにステキだね」－1	p16−17	特色４色	2004 年	ポプラ社
「きみはほんとうにステキだね」－2	p36−37	特色４色	2004 年	ポプラ社
「あなたをずっとずっとあいしてる」－1	p2−3	特色４色	2006 年	ポプラ社
「あなたをずっとずっとあいしてる」－2	p32−33	特色４色	2006 年	ポプラ社
「ぼくにもそのあいをください」－1	p28−29	特色４色	2006 年	ポプラ社
「ぼくにもそのあいをください」－2	p32−33	特色４色	2006 年	ポプラ社
「わたしはあなたをあいしています」－1		特色４色	2007 年	ポプラ社
「わたしはあなたをあいしています」－2	p38-39	特色４色	2007 年	ポプラ社
「あいしてくれてありがとう」－1	p18−19	特色４色	2008 年	ポプラ社
「あいしてくれてありがとう」－2	p22−23	特色５色	2009 年	ポプラ社
「であえてほんとうによかった」－1	p16−17	特色４色	2009 年	ポプラ社
「であえてほんとうによかった」－2	p28−29	特色５色	2009 年	ポプラ社
「いちばんあいされてるのはぼく」－1	p2−3	特色４色	2010 年	ポプラ社
「いちばんあいされてるのはぼく」－2	p6−7	特色５色	2010 年	ポプラ社
「わたししんじてるの」－1	p2−3	特色４色	2011 年	ポプラ社
「わたししんじてるの」－2	p34−35	特色５色	2011 年	ポプラ社
「ずっとずっといっしょだよ」－1	p20−21	特色４色	2012 年	ポプラ社
「ずっとずっといっしょだよ」－2	p38−39	特色５色	2012 年	ポプラ社
「あいすることあいされること」－1	p16−17	特色４色	2013 年	ポプラ社
「あいすることあいされること」－2	p38−39	特色４色	2013 年	ポプラ社
「やさしさとおもいやり」-1	p10-11	特色４色	2015 年	ポプラ社
「やさしさとおもいやり」-2	p30-31	特色４色	2015 年	ポプラ社
「ヒヒヒヒヒ うまそう」-1	p4-5	特色４色	2017 年	ポプラ社
「ヒヒヒヒヒ うまそう」-2	p12-13	特色４色	2017 年	ポプラ社
「おまえうまそうだな」ダミー本				
「いちばんさいされてるのはぼく」ダミー本				
「キラキラッとほしがかがやきました」ダミー本				
ジオラマ「ティラノサウルスシリーズ」				
ジオラマ「ティラノサウルスシリーズ（ドーム型）」				

来館イベント作品

サプライズイベント　ライブペイント作品 （制作期間：2020 年 7 月 10 日、11 日、8 月 19 日～21 日）	マジック（赤、オレンジ、黒）・紙	2020 年
スペシャルイベント　ライブペイント作品 （制作期間：2020 年 8 月 19 日～21 日）	マジック（赤、オレンジ、黒）・紙	2020 年
来館記念色紙（2020 年 7 月 10 日）	マジック（赤、オレンジ、黒）・紙	2020 年
アクリル板サイン（「はりまサタデー9」(8/29OA、撮影：8 月 19 日)	マジック（黒）・アクリルボード	2020 年

（２）　特別展「樋口一葉　その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく」

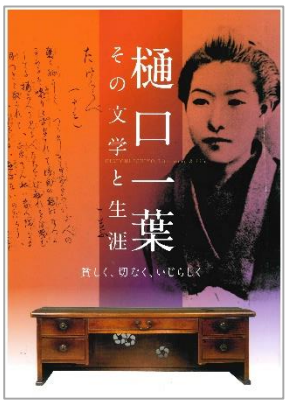
女性として日本で初めて文筆で一家の生計を立てることを志し、「たけくらべ」「にごりえ」「大つごもり」などの名作をのこして24歳で夭折した作家樋口一葉（明治５年～明治29年　1872～1896）の文学と生涯を、日本近代文学館所蔵の樋口一葉コレクションと同館名誉館長で詩人の中村稔氏の編集をもとに、当館独自の視点も加味して紹介した。

会場では、明治期の時代背景や一葉の文体に親しんでいただくため、いくつかのキーワード（戸主、女子教育など）を説明するコーナーや、日記の朗読音声スポット（６ヶ所）を設けた。また、館内のカフェでは、一葉が明治25年（1892）２月４日に半井桃水を訪ねた際のエピソードにちなんだコラボメニュー「雪の日のおしるこ」を提供し、好評を得た。

なお、本展では、同じく明治を生きた姫路出身の幼児教育者野口幽香（ゆか）（慶応２年～昭和25年　1866～1950）のパネル展も開催し、さまざまな壁を乗り越えて新たな道を切り拓いたもう一人の女性の人生をたどった。



会　　期　　令和２年10月３日（土）～11月23日（月・祝）
※休館日：毎週月曜日（11月23日は開館）、11月４日（水）
会　　場　　姫路文学館　北館
観 覧 料　　一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円
※20名以上の団体は２割引
主　　催　　姫路文学館
企画協力　　公益財団法人日本近代文学館
展示編集　　中村　稔（詩人・日本近代文学館名誉館長）
後　　援　　朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティＦＭ21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数　　44日間
観覧者数　　2,959人
出品点数　　約150点
印刷物等　　ポスターＡ３、Ｂ２、Ｂ３／チラシＡ４
図　　録　　A4判　40ページ　オールカラー　500部　令和２年10月３日刊行
販売価格1,000円
〔寄稿〕
「体験としての樋口一葉」川上未映子（小説家）
「一葉の歌―源氏物語から―」中川正美（梅花女子大学名誉教授）
「「今」と地続きの明治」滝沢志郎(小説家)



図録

水屋珈琲（南館１階）提供コラボメニュー
「雪の日のおしるこ」





展示会場



野口幽香コーナー

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館３階）

（１）展示解説会

日時　　令和２年10月11日（日）午前11時～12時、午後２時～３時
講師　　当館学芸員
参加者　65人

（２）記念講演会

日時　　令和２年10月17日（土）午後１時30分～３時
講師　　山本欣司（武庫川女子大学教授）
演題　　「樋口一葉を読み直す―「たけくらべ」「にごりえ」を中心に」
参加者　120人



山本欣司氏

（３）朗読会「にごりえ」

日時　　令和２年10月31日（土）午後１時30分～３時
出演　　伊藤恵美、田中洋子、松下由美、水田千波
　　（音訳ボランティアグループ・サークルさえずり）
参加者　90人



音訳ボランティアグループ・
サークルさえずりの皆さん

（４）姫路文学館友の会連携行事「朗読で味わう樋口一葉の日記」

当館友の会研修講座として同会員を対象に開催。

日時　　令和２年11月15日（日）午後１時30分～３時
出演　　小林みね子（劇団プロデュース・F）
参加者　80人



小林みね子氏

出　品　目　録　　〔前期／10 月 3 日～11 月 1 日　後期／11 月 3 日～11 月 23 日〕

資料名			所蔵等
プロローグ			
写真　樋口一葉			日本近代文学館提供
樋口一葉略年譜			日本近代文学館作成
樋口一葉転居地図			日本近代文学館作成
書籍　曲亭馬琴『南総里見八犬伝』第八輯巻之八上套　版本			当館蔵（金井寅之助文庫）
書籍　長沢伴雄編『類題鴨川次郎集』　版本		1850 年（嘉永 3）	当館蔵（金井寅之助文庫）
書籍　北村季吟『湖月抄』　版本			姫路市立琴丘高等学校蔵
書籍　謝肇淛『五雑組』　版本		1661 年（寛文元）	当館蔵（金井寅之助文庫）
書籍　『訂正増補　華族名鑑　全』（博文館）		1894 年（明治 27）	当館蔵（金井寅之助文庫）
雑誌　「十三夜」（「文芸倶楽部」1 巻 12 編　臨時増刊〈閨秀小説〉）		1895 年（明治 28）12 月 10 日	当館蔵
写真　川上未映子氏			川上未映子氏提供
書籍　川上未映子訳「たけくらべ」収録　池澤夏樹=個人編集『日本文学全集 13』(河出書房新社)		2015 年（平成 27）	当館蔵
書籍　松浦理英子『現代語訳　樋口一葉・たけくらべ』（1996 年（平成 8））ほか　“没後百年記念現代語訳・樋口一葉”シリーズ 全 5 巻（河出書房新社） ・「にごりえ」「この子」「裏紫」伊藤比呂美（1996） ・「闇桜」山本昌代、「うもれ木」井辻朱美、「雪の日」山本昌代、「ゆく雲」多和田葉子、 ・「うつせみ」角田光代（1997） ・「大つごもり」「われから」島田雅彦（1997） ・「やみ夜」藤沢周、「十三夜」篠原一、「わかれ道」阿部和重（1997）			当館蔵
書籍　川上未映子訳「裏紫」（「川上未映子　ことばのたましいを追い求めて」文藝別冊　KAWADE ムック）		2019 年（令和元）	個人蔵
雑誌　瀬戸内晴美「うらむらさき　一葉をうけて」（「使者」7 号　小学館）		1980 年（昭和 55）10 月 15 日	当館蔵
書籍　木村荘八『一葉たけくらべ絵巻』（講談社）		1982 年（昭和 57）8 月	日本近代文学館蔵
図版　新吉原廓内全景（大日本名所図会 59）		1908 年（明治 41）9 月	日本近代文学館提供
図版　吉原各楼之図			日本近代文学館提供
図版　浅草鷲神社参詣の図（風俗画報 176）			日本近代文学館提供
書籍　鏑木清方画『にごりえ』（画帖・複製　美術出版社）		1957 年（昭和 32）12 月	日本近代文学館蔵
書籍　三枝和子『ひとひらの舟　樋口一葉の生涯』(人文書院)		1992 年（平成 4）	当館蔵
写真　樋口一葉旧居跡（「桜木の宿」、本郷菊坂、丸山福山町）			当館撮影
第一部　一葉文学の世界			
図版　「大つごもり」挿絵（「太陽」再掲載）		1896 年（明治 29）2 月 5 日	日本近代文学館提供
原稿　「大つごもり」未定稿 B			日本近代文学館蔵
雑誌　「大つごもり」初出（「文学界」24 号）		1894 年（明治 27）12 月	日本近代文学館蔵
図版　「たけくらべ」（再掲）挿絵（「文芸倶楽部」2 巻 5 号）		1896 年（明治 29）4 月 10 日	日本近代文学館提供
原稿　「たけくらべ （15 回）」		1896 年（明治 29）	日本近代文学館寄託
原稿　「たけくらべ （12 回）」未定稿 E		1895 年（明治 28）2 月頃	日本近代文学館蔵
雑誌　「たけくらべ」初出（「文学界」25 号）		1895 年（明治 28）1 月 30 日	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛はがき		1895 年（明治 28）1 月 22 日	日本近代文学館蔵
書簡　平田禿木　樋口一葉宛封書		1895 年（明治 28）2 月 13 日	日本近代文学館蔵
自筆文書　雑記（感想・聞書 8）		1894、95 年（明治 27、28）頃か	日本近代文学館蔵
雑誌　「苦楽」（表紙　鏑木清方「たけくらべ」）		1949 年（昭和 24）6 月 1 日	日本近代文学館蔵
原稿　佐多稲子「「たけくらべ」解釈へのひとつの疑問」		1985 年（昭和 60）	日本近代文学館蔵
図版　「にごりえ」挿絵　（文芸倶楽部）			日本近代文学館提供
原稿　「にごりえ」未定稿 A		1895 年（明治 28）7 月か	日本近代文学館蔵
雑誌　「にごりえ」初出（「文芸倶楽部」1 巻 9 号）		1895 年（明治 28）9 月 20 日	日本近代文学館蔵
図版　「十三夜」挿絵（「文芸倶楽部」1 巻 12 編　臨時増刊〈閨秀小説〉）		1895 年（明治 28）12 月 10 日	日本近代文学館提供
書簡　平田禿木　樋口一葉宛封書		1895 年（明治 28）9 月 23 日推定	日本近代文学館蔵
雑誌　「十三夜」初出（「文芸倶楽部」1 巻 12 編　臨時増刊〈閨秀小説〉）		1895 年（明治 28）12 月 10 日	日本近代文学館蔵
原稿　「遠山鳥」未完成作品 20		1895 年（明治 28）1、2 月頃	日本近代文学館蔵
第二部　貧困の深淵から小説家へ			
1　父の死により境遇激変			
写真　父、母、長兄泉太郎、次兄虎之助、妹くに、一葉			日本近代文学館提供
原稿　「もしほ草」（詠草 21）		1888 年（明治 21）夏	日本近代文学館蔵
自筆文書　雑記 2（無題その二）		1889～1890 年（明治 22～23）	日本近代文学館蔵
書籍　三宅花圃『藪の鶯』（金港堂）		1888 年（明治 21）6 月	日本近代文学館蔵
日記　「鳥之部 Ⅰ」冒頭		1889 年（明治 22）8 月 20 日	日本近代文学館蔵
日記　「鳥之部 Ⅱ」	【後期展示】	1890 年（明治 23）1 月 16～17 日	日本近代文学館蔵
日記　「鳥之部 Ⅰ」	【前期展示】	1889 年（明治 22）7 月 17 日	日本近代文学館蔵
写真　萩の舎の発会記念		1887 年（明治 20）2 月 21 日	日本近代文学館提供
自筆文書　雑記「しのふくさ」	【後期展示】	1890 年（明治 23）	日本近代文学館蔵
2　小説家として歩み始める			
写真　半井桃水			日本近代文学館提供
書簡　半井桃水　樋口一葉宛封書		1891 年（明治 24）12 月 19 日	日本近代文学館蔵
自筆文書　雑記「森のした艸 一 」		1892 年（明治 25 春）春　推定	日本近代文学館蔵
雑誌　「闇桜」初出（「武蔵野」第 1 編）		1892 年（明治 25）3 月 23 日	日本近代文学館蔵
図版　「うもれ木」挿絵（「都の花」96 号）		1892 年（明治 25）12 月 4 日	日本近代文学館提供

資料名			所蔵等
雑誌　「うもれ木」初出（「都の花」95 号）		1892 年（明治 25）11 月 20 日	日本近代文学館蔵
原稿　「うもれ木」未定稿 A	【後期展示】	1892 年（明治 25）	日本近代文学館蔵
薩摩焼絵皿（次兄虎之助作・東海道五十三次宿場絵図）			日本近代文学館蔵
書籍　幸田露伴『風流仏』（新著百種　第 5 号　吉岡書籍店）		1889 年（明治 22）	当館蔵（金井寅之助文庫）
原稿　「経つくえ」未定稿 A・B	【前期展示】		日本近代文学館蔵
雑誌　「経つくえ」（再掲）（「文芸倶楽部」1 号 6 編）		1895 年（明治 28）6 月 20 日	当館蔵
雑誌　「暁月夜」初出（「都の花」101 号）		1893 年（明治 26）2 月 19 日	日本近代文学館蔵
書簡　伊東夏子　樋口一葉宛封書		1893 年（明治 26）4 月 5 日	日本近代文学館蔵
雑誌　「わかれ道」初出（「国民之友」277 号）		1896 年（明治 29）1 月	日本近代文学館蔵
3　ますます困窮～龍泉寺町へ			
雑誌　「雪の日」初出（「文学界」3 号）		1893 年（明治 26）3 月 31 日	日本近代文学館蔵
書簡　三宅花圃　樋口一葉宛はがき		1892 年（明治 25）12 月 24 日	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛封書		1893 年（明治 26）2 月 26 日	日本近代文学館蔵
自筆文書　「流水園雑記 一」		1893 年（明治 26）秋	日本近代文学館蔵
書簡　西村釧之助　樋口一葉宛はがき		1893 年（明治 26）8 月 6 日	日本近代文学館蔵
雑誌　「琴の音」初出（「文学界」12 号）		1893 年（明治 26）12 月	日本近代文学館蔵
雑誌　「花ごもり」初出（「文学界」14 号）		1894 年（明治 27）2 月 28 日	日本近代文学館蔵
書籍　久佐賀義孝『天啓顕真秘術書』		1891 年（明治 24）	当館蔵
4　本郷丸山福山町へ			
雑誌　「暗夜」初出（「文学界」19 号）		1894 年（明治 27）7 月 30 日	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛封書		1894 年（明治 27）11 月 24 日	日本近代文学館蔵
雑誌　「ゆく雲」初出（「太陽」1 巻 5 号）		1895 年（明治 28）5 月 5 日	日本近代文学館蔵
原稿　「ゆく雲 」未定稿 A			日本近代文学館蔵
原稿　「われから」未定稿 U	【後期展示】		日本近代文学館蔵
雑誌　「われから」初出（「文芸倶楽部」2 巻 6 号）		1896 年（明治 29）5 月	日本近代文学館蔵
図版　「われから」挿絵（「文芸倶楽部」2 巻 6 号）		1896 年（明治 29）5 月	日本近代文学館提供
第三部　一葉をめぐる人々			
1　萩の舎			
写真　萩の舎の発会記念		1891 年（明治 24）2 月	日本近代文学館提供
写真　中島歌子			日本近代文学館提供
写真　三宅花圃			日本近代文学館提供
写真　田中みの子			日本近代文学館提供
原稿　「棚なし小舟」（中島歌子添削）		1891 年（明治 24）秋	日本近代文学館蔵
雑誌　疋田達子「樋口一葉　生活苦を越えて一筋の道を生きたお夏さん」（「主婦之友」31 巻 5 号 「主婦之友」31 巻 5 号）		1947 年（昭和 22）5 月	日本近代文学館蔵
書籍　三宅花圃「私の歩んだ道」（神崎清編『現代婦人伝』中央公論社）		1940 年（昭和 15）5 月	当館蔵
書簡　伊東夏子　樋口一葉宛はがき		1890 年（明治 23）1 月 21 日	日本近代文学館蔵
雑誌　伊東夏子「わが友樋口一葉のこと」（「婦人朝日」18 巻 9 号）		1941 年（昭和 16）9 月	日本近代文学館蔵
書籍　田辺夏子『一葉の憶ひ出』（潮鳴会）		1950 年（昭和 25）1 月 1 日	日本近代文学館蔵
書簡　田中みの子　樋口一葉宛封書		1895 年（明治 28）4 月 18 日	日本近代文学館蔵
2　半井桃水			
書簡　樋口一葉　半井桃水宛封書		1892 年（明治 25）3 月 10 日	日本近代文学館蔵
原稿　「たま襷」未定稿 B			日本近代文学館蔵
雑誌　「たま襷」初出（「武蔵野」第 2 編）		1892 年（明治 25）4 月	日本近代文学館蔵
書簡　半井桃水　樋口一葉宛封書		1892 年（明治 25）8 月 10 日	日本近代文学館蔵
書簡　半井桃水　樋口一葉宛封書		1892 年（明治 25）12 月 7 日	日本近代文学館蔵
雑誌　「追憶談」掲載（「新潮」9 巻 4 号）		1908 年（明治 41）10 月	日本近代文学館蔵
3　「文学界」			
写真　「文学界」同人たち			日本近代文学館提供
写真　星野天知			日本近代文学館提供
書籍　星野天知『黙歩七十年』（聖文閣）		1938 年（昭和 13）10 月	日本近代文学館蔵
雑誌　平田禿木「伝記物語　樋口一葉」掲載（「大陸」2 巻 8 号）		1939 年（昭和 14）8 月	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛はがき	【後期展示】	1893 年（明治 26）11 月 23 日	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛はがき	【前期展示】	1893 年（明治 26）11 月 27 日	日本近代文学館蔵
書簡　星野天知　樋口一葉宛封書		1894 年（明治 27）6 月 8 日	日本近代文学館蔵
写真　平田禿木			日本近代文学館提供
書簡　平田禿木　樋口一葉宛封書	【前期展示】	1893 年（明治 26）3 月 21 日	日本近代文学館蔵
書簡　平田禿木　樋口一葉宛封書	【後期展示】	1895 年（明治 28）4 月 19 日	日本近代文学館蔵
書簡　平田禿木　樋口一葉宛封書		1896 年（明治 29）5 月 17 日	日本近代文学館蔵
写真　馬場孤蝶			日本近代文学館提供
雑誌　馬場孤蝶「故一葉女史」掲載（「明星」卯歳 8 号）		1903 年（明治 36）8 月	日本近代文学館蔵
書簡　馬場孤蝶　樋口一葉宛封書		1896 年（明治 29）2 月 4 日	日本近代文学館蔵
写真　戸川秋骨			日本近代文学館提供
書簡　戸川秋骨　樋口一葉宛はがき		1894 年（明治 27）12 月 20 日	日本近代文学館蔵
写真　上田敏			日本近代文学館提供
書籍　上田瓶『海潮音』（本郷書院）		1905 年（明治 38）10 月	日本近代文学館蔵
写真　島崎藤村			日本近代文学館提供
原稿　島崎藤村「春 (百十二)」		1908 年（明治 41）	日本近代文学館蔵
書籍　島崎藤村『春』〈緑蔭叢書 第 2 篇〉		1908 年（明治 41）10 月	日本近代文学館蔵
4　文壇の人々			

資料名			所蔵等
写真　「三人冗語」の人々(幸田露伴、森鷗外、斎藤緑雨)			日本近代文学館提供
写真　森鷗外			日本近代文学館提供
雑誌　「めさまし草」まきの四（三人冗語）		1896 年（明治 29）4 月 25 日	日本近代文学館蔵
雑誌　「たけくらべ」（再掲）（「文芸倶楽部」2 巻 5 号）		1896 年（明治 29）4 月 10 日	日本近代文学館蔵
書籍　森鷗外『美奈和集』（春陽堂）		1892 年（明治 25）7 月	日本近代文学館蔵
写真　幸田露伴			日本近代文学館提供
書籍　幸田露伴『尾花集』（嵩山堂）		1892 年（明治 25）10 月	日本近代文学館蔵
書簡　大橋乙羽　樋口一葉宛封書		1895 年（明治 28）3 月 29 日	日本近代文学館蔵
写真　泉鏡花			日本近代文学館提供
書籍　泉鏡花『薄紅梅』（中央公論社）		1939 年（昭和 14）10 月	日本近代文学館蔵
書簡　泉鏡花　樋口一葉宛はがき		1896 年（明治 29）8 月 20 日	日本近代文学館蔵
写真　斎藤緑雨			日本近代文学館提供
書籍　斎藤緑雨『かくれんぼ』(文学世界 6)（春陽堂）		1891 年（明治 24）7 月	日本近代文学館蔵
書籍　斎藤緑雨『あま蛙』（袖珍小説 第 9 編）（博文館）		1897 年（明治 30 年 5 月）	日本近代文学館蔵
書簡　斎藤緑雨　樋口一葉宛封書（一葉写）		1896 年（明治 29）1 月 9 日	日本近代文学館蔵
書簡　斎藤緑雨　樋口一葉宛封書	【前期展示】	1896 年（明治 29）10 月 3 日	日本近代文学館蔵
書簡　安井てつ　樋口一葉宛封書	【後期展示】	1896 年（明治 29）7 月 5 日	日本近代文学館蔵
第四部　生前唯一の単行本『通俗書簡文』～一葉の死後			
1　『通俗書簡文』			
原稿　「通俗書簡文」未定稿 D			日本近代文学館蔵
原稿　「通俗書簡文」未定稿 B			日本近代文学館蔵
書籍　大橋又太郎篇『通俗書簡文』（日用百科全書 12）（博文館）		1896 年（明治 29）5 月	日本近代文学館蔵
2　一葉の死後			
雑誌　「太陽」訃報欄		1896 年（明治 29）12 月 20 日	当館蔵
写真　一葉会（与謝野寛・晶子、馬場孤蝶、上田敏ほか）		1904 年（明治 37）2 月	日本近代文学館提供
自筆文書　樋口邦子筆「一葉略伝」（斎藤緑雨朱筆）			日本近代文学館蔵
書籍　『校訂一葉全集』（博文館）		1897 年（明治 30）6 月	日本近代文学館蔵
書籍　『一葉全集』前編・後編（博文館）		1912 年（明治 45）5 月、6 月	日本近代文学館蔵
書籍　『一葉全集』（博文館）		1897 年（明治 30）1 月	日本近代文学館蔵
原稿　幸田露伴　馬場孤蝶編『一葉全集』（1912 年（明治 45））序文			日本近代文学館蔵
原稿　島崎藤村『真筆版　たけくらべ』（博文館）序文			日本近代文学館蔵
書籍　樋口邦子編『真筆版　『たけくらべ』』（博文館）		1918 年（大正 7）11 月	日本近代文学館蔵
自筆文書　雑記「やたらつけ」		1893 年（明治 26）　推定	日本近代文学館蔵
自筆文書　雑記「はな紅葉一の巻」		1896 年（明治 29）	日本近代文学館蔵
書籍　曲亭馬琴『玄同放言』		1818 年（文政元）	当館蔵（金井寅之助文庫）
愛用の品（文机、角硯、丸硯、水差し、着物）			日本近代文学館蔵
◆　朗読音声スポット〈一葉の日記から〉			朗読・小林みね子 （劇団プロデュース・F）
パネル展「もうひとりの明治の女性　姫路生まれの保育の先駆者　野口幽香」			
書籍　滝沢志郎『明治乙女物語』（文藝春秋）		2017 年（平成 29）	当館蔵
滝沢志郎「「今」と地続きの明治」（本展図録寄稿文パネル）			
写真　滝沢志郎氏			滝沢志郎氏提供
写真　野口幽香			東京女子大学比較文化研究所提供
野口幽香略年譜			当館作成
姫路城之図（貳千分一縮図）		1877 年（明治 10）以前	姫路市立城内図書館蔵
写真　ムーセ旧居（兵庫県朝来市）			当館撮影
写真　伝習所附属小学入校願		1875 年（明治 8）11 月 22 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　小学生時代の暗記問答帳（動物）		1878 年（明治 11）7 月 3 日起筆	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　小学時代の作文「投蚊文」			東京女子大学比較文化研究所提供
写真　姫路中学が創設された景福寺			当館蔵
写真　姫路中学本科第 4 級卒業証書		1879 年（明治 12）9 月 17 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　三上参次　野口幽香宛書簡		1939 年（昭和 14）5 月 26 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　高等師範学校時代			当館蔵
写真　級友の安井てつ、小川（塚本）はまと		1886 年（明治 19）7 月 11 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　家族と		1886 年（明治 19）12 月（推定）	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　高等師範学校卒業写真		1890 年（明治 23）3 月	お茶の水女子大学提供
写真　任女子高等師範学校保姆の状		1890 年（明治 23）10 月 15 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　幽香が撮影した華族女学校幼稚園でのスナップ			東京女子大学比較文化研究所提供
写真　二葉幼稚園設立許可証		1900 年（明治 33）7 月 24 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　二葉幼稚園		1902 年（明治 35）	二葉保育園提供
写真　二葉幼稚園創設当時の園児たち		1900 年（明治 33）	二葉保育園提供
写真　弟・野口孫市邸にて		1915 年（大正 4）10 月 31 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　幽香を支えた中心的保育者たち		1941 年（昭和 16）	二葉保育園提供
写真　俳句帳「句作四年」		1934～1937 年（昭和 9～12）	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　有島武郎　野口幽香宛書簡		1921 年（大正 10）1 月 4 日	東京女子大学比較文化研究所提供
写真　姫路市名古山霊苑の野口家累代之墓			当館撮影
書籍　貝出寿美子『野口幽香の生涯』（二葉保育園）		2001 年（平成 13）	当館蔵

資料名		所蔵等
書籍　大石茜『近代家族の誕生　女性の慈善事業の先駆、「二葉幼稚園」』（藤原書店）	2020 年（令和 2）	当館蔵
書籍　二葉保育園編『二葉保育園八十五年史』	1985 年（昭和 60）	当館蔵
雑誌　野口幽香インタビュー記事「貧しき子等に生涯を捧げて」（神崎清「私の歩んで来た道」「婦人公論」）	1939 年（昭和 14）6 月	当館蔵
書籍　青山なを編『若き日のあと　安井てつ書簡集』	1965 年（昭和 40）	当館蔵

（３）　企画展「没後60年記念　歌人岸上大作展」

福崎町出身の夭折の歌人岸上大作（昭和14年～35年　1939～1960）の没後60年を記念した企画展。1999年、2010年に続き、３度目となる本展では、第１会場（企画展示室）で、誕生から高校卒業までの福崎時代、第２会場（特別展示室）で上京から死までの東京時代を紹介。これまで以上に、詳細に岸上の21年と２か月の生涯を紹介した。

オープニングの福島泰樹氏の講演会には、コロナ禍にもかかわらず、各地から歌人の皆さんが参集くださり、会期中、遠方から足を運ばれたファンの方々の声も多数届いた。

また、東京の演劇人の皆さんの協力によって実現した舞台「辺境―どこまでいっても」は、令和の現代において岸上をどう捉えるかを示すひとつの貴重な記録となった。

さらにＳＮＳなどを通じて、没後60年を経ても、幅広い世代に岸上という歌人の存在が、生き続けていることを証明できた好機となった。



会　　期　令和２年12月５日（土）～令和３年３月21日（日）
※休館日：毎週月曜日（１月11日は開館）、12月25日（金）～１月５日（火）、
１月12日（火）、２月12日（金）、２月24日（水）
会　　場　姫路文学館　北館
観 覧 料　一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円（常設展観覧料）
※20名以上の団体は２割引
主　　催　姫路文学館
開催日数　80日間
観覧者数　1,829人
出品点数　約200点
印刷物等　ポスターＡ３／チラシＡ４
図　　録　Ａ４判　40ページ　オールカラー　500部　令和２年12月５日刊行
販売価格1,000円
〔寄稿〕
「60年後の岸上に贈る一首」福島泰樹（歌人）・沢口芙美（歌人）
「一首鑑賞」尾崎まゆみ（歌人）・黒瀬珂瀾（歌人）
・佐佐木定綱（歌人）・大森静佳（歌人）
「「ぼくのためのノート」を舞台化するために考えたこと」
南　慎介（劇作家・演出家）
「岸上大作旧蔵の寺山修司第一歌集『空には本』への書き込み」
葉名尻竜一（立正大学准教授）

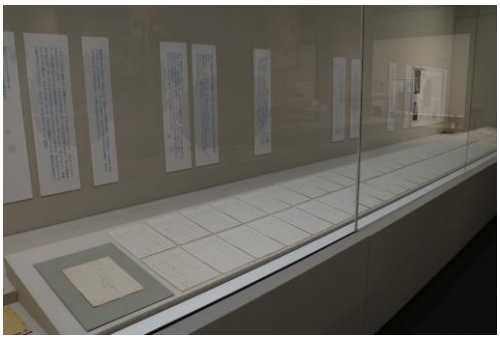


図録

水屋珈琲（南館１階）提供コラボメニュー
「キシガミくんセット」







展 示 風 景

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館３階）



福島泰樹氏

（１）オープニング記念 福島泰樹講演会
日時　　令和２年12月５日（土）午後１時30分～３時
講師　　福島泰樹（歌人）
演題　　「血と雨の歌―没後六十年を迎えた岸上大作」
参加者　80人

（２）展示解説会
日時　　令和３年２月14日（日）午後１時30分～３時
講師　　当館学芸員
参加者　40人

（３）舞台「辺境―どこまでいっても」招聘公演
日時　　令和３年３月14日（日）（２回公演）
　　①午前11時～12時30分 ②午後２時～３時30分
作・演出　南　慎介（Ammo）
出演　　土佐まりな、もなみのりこ、ひきのさつき、小林咲子、
　　井上実莉
原作　　岸上大作「ぼくのためのノート」
参加者　100人（各回50人）



ゲネプロ風景

出　品　目　録

資料名	収蔵等（記載のない資料は全て館蔵品）
六十年後の岸上に贈る歌　福島泰樹色紙	
第１章　五月の雨 ―幼き記憶	
写真　生後７か月の大作	昭和 15 年（1940）5 月 10 日
写真　母まさゑと大作	昭和 16 年（1941）2 月 4 日
写真　自宅の庭で　父繁一と大作	昭和 16 年（1941）5 月 30 日
写真　自宅の縁側で　父繁一と大作	昭和 15 年（1940）10 月 6 日
写真　ぐずる大作を抱きしめる母	昭和 16 年（1941）5 月 27 日
家族のアルバム	昭和 16 年（1941）5 月
父出征の際の記念写真	昭和 18 年（1943）7 月
出征記念の家族写真	昭和 18 年（1943）7 月
戦地の父からのはがき	昭和 18 年（1943）～20 年（1945）頃
写真　戦地の父	昭和 19 年（1944）6 月
写真　戦地の父に送った大作と佳世の写真	昭和 18 年（1943）10 月 28 日
戦地の父から届いた写真	昭和 19 年（1944）9 月
生前最後の父の写真	昭和 20 年（1945）4 月 27 日
写真　内地の家族	（撮影時期不明）
「ある記憶」草稿（「タンカの為のノート」）	昭和 34 年（1959）
「白き骨…」が第１席になった喜びを記す高校２年の日記	昭和 31 年（1956）10 月 12 日
「白き骨…」が一席となった「高校時代」	昭和 31 年（1956）11 月号
「ある記憶」	「まひる野」昭和 34 年（1959）5 月号
写真　戦後の一家	昭和 21 年（1946）頃
第２章　その後の十年 ―父の居ぬ家	
小学校時代―母の背中	
写真　生家（神崎郡福崎町西田原）	
写真　生家屋内の様子	平成 11 年（1999）撮影
写真　当時の田原小学校校舎	
写真小学校低学年の頃　自宅の庭で	
小学６年生の詩	昭和 26 年（1951）4 月 10 日
小学６年生夏休みの日記	昭和 26 年（1951）7 月 28 日
夏休みに自ら編集した児童詩集	昭和 26 年（1951）7 月 30 日～8 月 21 日
写真　京都・奈良への修学旅行（京都・平安神宮）	昭和 26 年（1951）9 月 26 日
修学旅行先の奈良で買ったミニチュアの大仏像	
小学６年生冬休みの日記	昭和 26 年（1951）12 月 30 日～昭和 27 年（1952）1 月 1 日
卒業文集に載った詩	昭和 27 年（1952）3 月
写真　田原小学校卒業記念	昭和 27 年（1952）3 月 15 日
中学校時代―政治少年	
家庭の貧困についてふれた中学一年生の日記	昭和 27 年（1952）7 月 20 日
「きけわだつみのこえ」	昭和 27 年（1952）2 月　東京大学出版会
写真　従兄弟たちと市川で水泳	昭和 27 年（1952）8 月 15 日
中学２年生の時の新聞投稿記事（毎日新聞朝刊）	昭和 28 年（1953）11 月 25 日
中学３年生の日記「平和」	昭和 29 年（1954）6 月 17 日～昭和 30 年（1955）1 月 9 日
中学３年生の作文「汽船　修学旅行の思い出」	昭和 29 年（1954）5 月
日記「平和」の冒頭に書かれた言葉	昭和 29 年（1954）6 月 17 日
「農繁休日」からの思考を綴った日記	昭和 29 年（1954）6 月 26・27 日
生徒会会報	昭和 29 年（1954）
中学３年生の時の原稿「生徒会の現状」	昭和 29 年（1954）
同級生への恋に悩む日記（日記「平和」）	昭和 29 年（1954）8 月 26 日
祖父と母の確執に悩む日記（日記「平和」）	昭和 29 年（1954）10 月 25 日
中学卒業の頃の日記	昭和 30 年（1955）3 月 24 日
田原中学校誌「あけぼの」卒業のことば	昭和 30 年（1955）3 月
母への愛憎を書いた日記	昭和 30 年（1955）3 月 29 日
写真　母（30 代半ば）と妹	昭和 27 年（1952）頃
高校時代 ―文学の夢	
写真　福崎高等学校入学記念	昭和 30 年（1955）4 月
写真　当時の福崎高校	
小説「半年」　原稿	昭和 30 年（1955）5 月
小説「姫路」原稿	昭和 30 年（1955）6 月
丹羽文雄からの返信についての日記	昭和 30 年（1955）10 月 27 日
高校時代の創作手帳　№1	昭和 30 年（1955）5 月 1 日～7 月
「週刊朝日」(宇高連絡船「紫雲丸」事故報道)	昭和 30 年（1955）5 月 22 日号
1 年生 2 学期を終えた日の日記の記述	昭和 30 年（1955）12 月 24 日
歌誌「まひる野」	
岩田正からのメッセージ	昭和 31 年（1956）7 月
「まひる野」添削歌稿	昭和 31 年（1956）7 月
「まひる野」入会を記した日記	昭和 30 年（1955）7 月 28 日

資料名		収蔵等（記載のない資料は全て館蔵品）
高校時代の創作手帳　№2	昭和 30 年（1955）8 月 10 日～昭和 31 年（1956）11 月頃	
「高校時代」初入選を喜ぶ日記	昭和 30 年（1955）12 月 26 日	
歌誌「文学圏」	昭和 31 年（1956）～32 年（1957）	
高校 2 年生の日記	昭和 31 年（1956）6 月 12 日	
福崎高等学校文芸部誌「れいめい」第 1 号	昭和 31 年（1956）1 月	
「高校時代」入選賞品　メダル		
昭和 31 年（1956）元日の日記		
結実　青春ノート	昭和 31 年（1956）2 月～8 月	
写真　文芸部の仲間、山下教諭と共に（室津にて）	昭和 31 年（1956）年 8 月 4 日	
文芸部誌「れいめい」第 2 号	昭和 31 年（1956）10 月	
「黎明」第 2 号のための歌稿	昭和 31 年（1956）	
岩田正からの励ましの年賀状	昭和 32 年（1957）1 月 4 日	
岩田正の年賀状を受けた日の日記	昭和 32 年（1957）1 月 7 日	
「挽歌」などの彫りこみがある自宅の机		
生家の部屋に残されていた「民主主義」という貼り紙		
写真　妹佳世	昭和 32 年（1957）10 月	
写真　東京への修学旅行（皇居前広場にて）	昭和 32 年（1957）4 月 26 日	
高瀬隆和への初めてのはがき	昭和 32 年（1957）8 月 17 日	
同人誌発刊計画を語る高瀬隆和へのはがき	昭和 32 年（1957）9 月 10 日	
蔵書に残る書き込み	昭和 32 年（1957）7 月	
進学についてアドバイスする窪田章一郎書簡	昭和 32 年（1957）10 月 15 日	
日本育英会奨学生予約採用決定通知書	昭和 33 年（1958）2 月 5 日	
東京進学への決意を伝える高瀬隆和へのはがき	昭和 33 年（1958）1 月 11 日	
合格電報（早稲田大学、國學院大學）	昭和 33 年（1958）3 月 20 日・25 日	
写真　木造の駅舎だった頃の姫路駅前風景	昭和 32 年（1957）～33 年（1958）頃か	黒田書店提供
当時、姫路で買った本		
写真　姫路少年刑務所前を通るバス		
写真　本町商店街	昭和 20 年代後半か	黒田書店提供
写真　本町商店街「黒田書店」	昭和 29 年（1954）頃	黒田書店提供
写真　素屋根で覆われていた頃の姫路城		姫路市立城郭研究室　所蔵
第 3 章　　東京―少年期からの訣別		
東京から書いた母への最初のはがき	昭和 33 年（1958）4 月 9 日	
文庫本の書き込み	昭和 33 年（1958）4 月 10 日	
学生証の写真		
写真　國學院大學の屋上にて	昭和 33 年（1958）12 月	
写真雪が谷大塚駅に向かう坂		
写真岸上が下宿した生駒家のあった路地		
写真　岸上が通った長壽庵		
渋谷－雪ケ谷大塚定期券		
日記の落書き	昭和 33 年（1958）5 月 29 日	
書き込みのある文庫本	昭和 33 年（1958）・34 年（1959）	
母への仕送りの礼状	昭和 33 年（1958）5 月 13 日	
仕送りの礼に対する母からの手紙	昭和 33 年（1958）5 月 16 日	
再度の送金を依頼する母への手紙	昭和 33 年（1958）6 月 10 日	
母からの手紙	昭和 33 年（1958）6 月 12 日	
大作の夢を見たという母からの手紙	昭和 33 年（1958）11 月 29 日	
母への手紙	昭和 33 年（1958）12 月 1 日	
皇太子妃決定、ご成婚を報じる当時の週刊誌		
生活の記録		
アルバイト先の身分証明書	昭和 33 年（1958）	
増進会の給与計算書		
日記の末尾につけられた出納簿		
母への会計報告書		
書き込みのある文庫本		
奨学生生活状況報告書	昭和 35 年度（1960）	
母から届いた仕送りの封筒	昭和 33 年（1958）～35 年（1960）	
写真　18 歳の岸上（秋川渓谷で）	昭和 33 年（1958）5 月 11 日	
「東京日記」3「光る海」	昭和 33 年（1958）11 月 15 日	
新しい歌の場所		
高瀬隆和へのはがき	昭和 33 年（1958）8 月 30 日	
写真　西村尚（右）と	昭和 34 年（1959）1 月	
創作ノート「タンカの為のメモ」		
「国学院短歌」	昭和 33 年（1958）5・7 月	
高橋六二宛はがき	昭和 33 年（1958）7 月 19 日	
写真　「まひる野」大会にて	昭和 33 年（1958）8 月 10 日	
「まひる野」11 月号のための歌作ノート	昭和 33 年（1958）9 月	
第 4 回全日本学生短歌大会で表彰を受ける岸上	昭和 33 年（1958）11 月 8 日	
第 4 回全日本学生短歌大会パンフレット	昭和 33 年（1958）11 月 8 日	

資料名	収蔵等（記載のない資料は全て館蔵品）
歌誌「汎」	昭和 33 年（1958）6 月～12 月
写真　「汎」の同人たち　（國學院大學）	昭和 33 年（1958）12 月 10 日
写真　國學院大學屋上で	
「東京日記」2「生キル日ニ」	昭和 33 年（1958）8 月 5 日
「汎」のための歌作ノート（「タンカの為のメモ」）	
原稿「胎動グループの呼びかけ」原稿	昭和 33 年（1958）11 月
「汎」の「歴史」が記された日記（　「東京日記」5「ばく」）	昭和 34 年（1959）4 月 18 日
十代の歌集『生まれ出ようとして」出版計画書	昭和 34 年（1959）
手製ノート　十代の歌集『生まれ出ようとして」	
歌集準備のためのノート	昭和 34 年（1959）
東京の恋	
野村トヨ子への思いを書いた日記（「東京日記」3「光る海」）	昭和 33 年（1958）11 月 30 日
写真　岸上（左から 2 人目）と（1 人おいて）野村トヨ子	昭和 33 年（1958）12 月 10 日
野村とのむなしい逢瀬を嘆く日記　（「東京日記」4（無題））	昭和 34 年（1959）1 月 5 日
失恋の頃の日記　（「東京日記」4（無題））	昭和 34 年（1959）2 月 15・16 日
失恋を詠んだ歌（手製ノート「生まれ出ようとして」）	昭和 34 年（1959）
母への手紙	昭和 34 年（1959）2 月 25 日
行動 ―二十歳の覚悟	
高瀬隆和へのはがき	昭和 34 年（1959）2 月 6 日
１９歳の自画像	昭和 34 年（1959）4 月 17 日
メーデー参加と引っ越しの決意を告げる母へのはがき	昭和 34 年（1959）5 月 2 日・5 月 3 日
「雨のメーデー」歌稿	昭和 34 年（1959）
「雨のメーデー」を作ったノート	昭和 34 年（1959）5 月
「東京日記」5「ばく」	昭和 34 年（1959）5 月 14 日
引っ越しを報告する母へのはがき	昭和 34 年（1959）5 月 15 日
母からの手紙	昭和 34 年（1959）5 月 19 日
片思いの相手を詠んだ歌が書かれたノート	昭和 34 年（1959）5 月 18 日
写真　大学歌人会「明日を展く会」	昭和 34 年（1959）6 月 27 日
写真　大学歌人会合同歌集「青年」出版記念会	昭和 34 年（1959）10 月 27 日
ノート「大学歌人会」	昭和 34 年（1959）11 月 28 日
中井英夫からのはがき	昭和 34 年（1959）8 月 4 日
佐佐木幸綱からのはがき	昭和 35 年（1960）3 月 17 日
全てに？とＮＯＮを!!	
結核の疑いがあることを書いた母への手紙	昭和 34 年（1959）8 月 24 日
写真　20 歳の誕生日（神宮内苑にて）	昭和 34 年（1959）10 月 21 日
祖父勇次郎からの手紙	昭和 34 年（1959）8 月 30 日
母へのはがき	昭和 34 年（1959）11 月 16 日
スケッチノート	昭和 34 年（1959）
「禿山の話」10 首　「短歌」	昭和 34 年（1959）12 月号
高瀬隆和へのはがき	昭和 34 年（1959）10 月 25 日
高校時代の恩師山本毅へのはがき	昭和 34 年（1959）11 月 7 日
高瀬隆和への年賀状	昭和 35 年（1960）1 月
高校時代の恩師山本毅へのはがき	昭和 35 年（1960）1 月 10 日
高瀬隆和へのはがき	昭和 35 年（1960）1 月 4 日
高瀬隆和へのはがき	昭和 35 年（1960）3 月 26 日
第４章　１９６０年 ―いまこそぼくは	
昭和 35 年（1960）スケジュール帳	
写真　短歌研究会の新入生歓迎ハイキングで	昭和 35 年（1960）5 月 8 日
エッセイ「閉ざされた庭」原稿	昭和 35 年（1960）5 月
「閉ざされた庭」　（「国学院短歌」31 号）	昭和 35 年（1960）5 月
「意志表示」創作ノート（「タンカの為のメモ」）	昭和 35 年（1960）4 月 27 日
安保闘争を報じる当時の週刊誌「週刊朝日」「週刊新潮」	昭和 35 年（1960）
「意志表示」歌稿	昭和 35 年（1960）5 月
「短歌」からの寄稿依頼	昭和 35 年（1960）6 月 21 日
デモへの参加を告げる母への手紙	昭和 35 年（1960）5 月 23 日
寺山修司からのはがき	昭和 35 年（1960）6 月 10 日
国会デモでの負傷を告げる母への手紙	昭和 35 年（1960）6 月 16 日
母からの手紙	昭和 35 年（1960）6 月 27 日
「黙禱」歌稿と掲載誌「短歌」	昭和 35 年（1960）8 月号
冨士田元彦からの原稿受領はがき	昭和 35 年（1960）7 月 9 日
編集者冨士田元彦への手紙	昭和 35 年（1960）7 月 15 日
角口芳子に贈られた文庫本『抵抗詩人アラゴン』	個人蔵
歌誌「具象」	昭和 35 年（1960）7 月 15 日
後輩平田浩二への怒りの手紙	昭和 35 年（1960）7 月 19 日
帰省先から高瀬隆和へのはがき	昭和 35 年（1960）8 月 6 日
蔵書吉本隆明『異端と正系』『藝術的抵抗と挫折』	
写真　福崎の実家の庭で	昭和 35 年（1960）8 月
福崎から高瀬隆和へのはがき	昭和 35 年（1960）8 月 17 日

資料名		収蔵等（記載のない資料は全て館蔵品）
「短歌研究」新人賞発表号	昭和 35 年（1960）9 月号	
母への手紙	昭和 35 年（1960）9 月 22 日	
岡井隆からのはがき	昭和 35 年（1960）9 月 12 日	
「岡井隆ノート　附相良宏歌集」	昭和 35 年（1960）	
「新鋭歌人座談会・明日をひらく」	「短歌」昭和 35 年 10 月号	
「しゅったつ」歌稿と掲載誌	「短歌研究」昭和 35 年 11 月号	
吉本隆明からの手紙	昭和 35 年（1960）11 月 6 日	
「寺山修司論」原稿と掲載誌	「短歌」昭和 35 年 11 月号	
角口芳子が筆写した寺山修司短歌		
「寺山修司論」執筆についての冨士田元彦宛はがき	昭和 35 年（1960）9 月 24 日	
岸上大作旧蔵の寺山修司歌集『空には本』	昭和 33 年（1958）6 月　的場書房	個人蔵
角口芳子に贈った『吉本隆明詩集』	昭和 33 年（1958）　ユリイカ	個人蔵
第 5 章　敗北　生きている不潔		
昭和 35 年（1960）のスケジュール帳最後の記述		
「十月の理由」歌稿と掲載誌「短歌」	昭和 35 年（1960）12 月号	
冨士田元彦への手紙	昭和 35 年（1960）10 月 22 日	
母への最後のはがき	昭和 35 年（1960）11 月 22 日	
母からの最後の手紙	昭和 35 年（1960）11 月 25 日	
絶筆「ぼくのためのノート」下書き	昭和 35 年（1960）12 月 3 日	
高瀬隆和への遺書	昭和 35 年（1960）12 月 4 日	
雲丹亀剛への遺書	昭和 35 年（1960）12 月 4 日	
冨士田元彦への遺書	昭和 35 年（1960）12 月 4 日	
母への遺書	昭和 35 年（1960）12 月 4 日	
遺した書籍その他の処理、及び連絡先		
絶筆「ぼくのためのノート」	昭和 35 年（1960）12 月 4 日～5 日	
写真　久我山の下宿の前で	昭和 35 年（1960）1 月 15 日	
写真　久我山の下宿　現在の様子	令和 2 年（2020）9 月撮影	
終章　その終焉から		
「特集・ある青年歌人の死をめぐって」	「短歌」昭和 36 年 2 月号	
岸上の死を報じる週刊誌記事	「女性自身」昭和 36 年 2 月 21 日号	
「具象」2・3 号	昭和 35 年（1960）10 月・昭和 36 年（1961）2 月	
中野孝次「六月の記憶」原稿		
一周忌の歌人たちからの名前の寄せ書き	昭和 36 年（1961）12 月 5 日	
歌集『意志表示』	昭和 36 年（1961）6 月　白玉書房	
その後、出版された岸上大作の著作		
岸上の短歌を採録した教科書		
高瀬隆和へのはがき	昭和 33 年（1958）12 月 4 日	
写真　高瀬隆和（左）と岸上　奥多摩にて	昭和 33 年（1958）5 月 11 日	
高瀬隆和『岸上大作の歌』（雁書館）	平成 16 年（2004）	
小川太郎『血と雨の墓標　評伝岸上大作』（姫路文学館）	平成 11 年（1999）	
写真　岸上大作について語る高瀬隆和氏（姫路文学館講堂）	平成 11 年（1999）11 月 21 日	
写真　姫路文学館での短歌絶叫コンサート（姫路文学館講堂）	平成 11 年（1999）11 月 6 日	
福島泰樹　第 26 歌集『血と雨の歌』（思潮社）	平成 26 年（2011）12 月 5 日	
「友への手紙　森田童子自選集」ＣＤ		
「辺境―どこまでいっても」初演フライヤー及び台本		個人蔵
写真　福崎駅		
写真　兵庫県立福崎高等学校		
写真　校内の歌碑		
写真　辻川山山頂「岸上大作　望郷の丘」		
写真　望郷の丘からの眺め		
写真　岸上大作の眠る墓所		
写真　生家跡		
写真　井ノ口公民館		
60 年後の岸上に贈る歌　沢口芙美色紙		

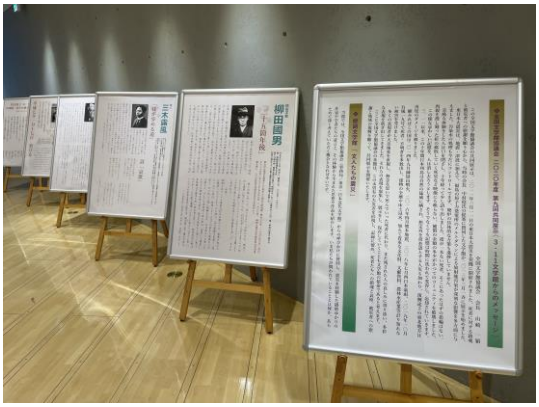
（４）　全国文学館協議会共同展〈3.11文学館からのメッセージ〉

パネル展「文人たちの震災」

全国文学館協議会（事務局／東京・日本近代文学館）が東日本大震災を契機に「死者に対する鎮魂と被災者への慰謝を願」い、平成24年度から取り組んでいる共同展。本年度は加盟館約100館のうち34館が各館独自の展覧会を３月に同時開催した。

姫路文学館では、昨年、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため臨時休館となり３日間のみの開催となってしまったため、改めて昨年同様に阪神淡路大震災や関東大震災を経験した播磨ゆかりの作家、学者たちの言葉や作品をパネルで紹介した。

会　　期　　令和３年３月２日（火）～３月31日（水）
会　　場　　姫路文学館　南館　さんかくギャラリー
開催日数　　26日間
観 覧 料　　無料
観覧者数　　1,578人
出品点数　　パネル５枚



展示風景

出品目録

【パネル】

「民俗学者　柳田國男」
「詩人 三木露風」
「小説家　佐多稲子」
「川柳作家　時実新子」
「時実新子選・曽我碌郎編『川柳集　悲苦を超えて　阪神淡路大震災』より」

2　夏季大学

文学、歴史、文化など様々な分野の著名な講師を招いて、市民の文化的資質の向上を図る恒例行事。令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催を中止した。

3　第22回司馬遼太郎メモリアル・デー

現代日本を代表する作家であった司馬遼太郎の業績を顕彰するために、毎年司馬の生誕日である８月７日に開催。今回は感染防止のため会場（例年は当館講堂）を変更して実施した。

司馬作品の愛読者でもある作家の辻原登氏を講師に招いた。進行はラジオ関西番組のパーソナリティを務める田名部真理氏が担当し、講演後のパネルトークでは辻原氏と司馬遼太郎記念館の上村洋行氏が田名部氏の問いかけに答えた。

辻原氏は、まず歴史と小説の違いについて説明をされた後、演題に示した二人の大著を、時代と登場人物にかかわる膨大な資料を調べ上げ、事実に基づきつつ彼らが何を考えたのかを想像し、その人物その時代の真実に迫ろうとした作品であると分析。歴史小説を読むことで真実に触れて欲しいと語られた。

ラジオ関西が１時間の特別番組に編集し、８月 16 日（日）午後４時から放送した。

全記録を「姫路文学館紀要　No.24」に収録している。

日　　時	令和２年８月７日（金）　午後１時 30 分～午後３時 15 分
会　　場	姫路市市民会館　大ホール
協　　賛	公益財団法人司馬遼太郎記念財団
参加者数	180 人
内　　容	講演：辻原　登（作家） 「歴史小説とは何か－大佛次郎『天皇の世紀』と司馬遼太郎『坂の上の雲』を巡って－」 パネルトーク：辻原　登 上村洋行（司馬遼太郎記念館長） 進行：田名部真理（ラジオ関西パーソナリティ）



辻原登氏

4　第６回藤原正彦エッセイコンクール

エッセイストとしても人気の高い当館の藤原正彦館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が「読書」とともに推奨する「書くこと」の大切さを伝えるため、平成27年度に創設した。「生きることとは創ること」という藤原館長の言葉をキャッチフレーズに、何気ない日常、出会った人や書物など、心のどこかに宿り自分自身をつくり出しているものを見つめ、考え、文章にする機会を全国に発信するものである。

入賞作品は、表彰式において配布する作品集（冊子）や、姫路文学館ホームページに掲載。また、各部門の最優秀作は文化雑誌「バンカル」119号（令和３年３月　姫路市文化国際交流財団発行）でも紹介した。

■賞の概要

（1）応募規定

対象は中学生以上、テーマは自由、400字詰め原稿用紙５枚以内。日本語で書かれた自作で、未発表のものに限る。令和２年９月15日〆切。

（2）審査員

姫路文学館館長　藤原正彦氏　（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）

（3）賞

各部門とも〈最優秀賞〉〈優秀賞〉〈佳作〉各１編。賞状、藤原正彦館長のサイン入り著書と副賞を贈呈。

〔副賞〕

	最優秀賞	優秀賞	佳　作
中学生部門	図書カード1万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分
高校生部門	図書カード3万円分	図書カード1万円分	図書カード5千円分
一般部門	10万円	3万円	1万円

■受賞作及び受賞者

【中学生部門】

最優秀賞　「ノクターンの雨」大屋莉々花（兵庫県　小林聖心女子学院中学校３年）

優 秀 賞　「NY五十二番街」菊地　馨（宮城県仙台二華中学校３年）

佳　　作　「愛着について」中　洋貴（兵庫県　灘中学校２年）

【高校生部門】

最優秀賞　「暗室の蛹」青木望愛（東京都市大学等々力高等学校２年）

優 秀 賞　「自分の愛し方」竹内彩花（兵庫県立姫路東高等学校３年）

佳　　作　「死に前旅行」権　瑞香（兵庫県　小林聖心女子学院高等学校２年）

【一般部門】

最優秀賞　「もう一つの生き方」小川かをり（61歳　非常勤講師　東京都狛江市）

優 秀 賞　「水玉もようのチューブ」林　久美子（53歳　学芸員　長野県岡谷市）

佳　　作　「天使の水」菱川町子（76歳　無職　愛知県稲沢市）

※学年、年齢、職業は発表日（令和２年12月５日）時点

■応募点数

1,423点（中学生部門　64点、高校生部門　605点、一般部門　754点）

■表彰式

日　　時　　令和３年１月23日（土）午後１時30分～３時
会　　場　　姫路文学館　講堂（北館３階）（無観客・オンラインで開催）
内　　容　　表彰式、各部門最優秀作（計３点）の朗読（音訳ボランティア サークルさえずり　岡本伸子さん、西井佳子さん）、藤原正彦姫路文学館長による講評
※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため受賞者のみオンラインで表彰



藤原正彦館長と受賞者のみなさん

5　第９回「世界にひとつの絵本づくり」

夏休みの子ども向けワークショップ。例年は２日にわたっておはなしを作り、実際に製本する作業まで体験できるプログラムを実施しているが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため開催せず、講師の成広のり子さんが作成した絵本づくりの動画をオンラインで公開した。

講師　　成広のり子（画家・絵本作家）
動画配信URL　https://www.youtube.com/watch?v=UpFf1Tg0jO4



成広のり子氏

6　第９回ＫＯＴＯＢＡまつり

会　期　　令和３年３月２日(火)～３月28日（日）　　全１イベント、１企画展
会　場　　姫路文学館　講堂

幅広い年齢層の方々にさまざまなイベントを通して「ことば」との出会いを楽しんでいただく冬の恒例行事。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、規模を縮小して実施した。
※本事業の一環として開催した以下の企画展については30ページに別掲。
〈パネル展〉「文人たちの震災」　　令和３年３月２日（火）～３月31日（水）

■人形劇「でこぼこげきじょう」
子ネコのニヤが初めての外の世界で様々なものに触れ合う様子を描いた「ニヤのだいぼうけん」と、長崎のわらべ唄から出てきた小さな竜と女の子ありこの心あたたまるお話「でんでら竜がでてきたよ」の２本をお楽しみいただいた。

日　時　　３月21日（日）午前11時～11時45分、午後２時～２時45分
出　演　　人形劇団京芸
参加者　　計160人（２回合わせて）




上 演 の 様 子

7　第12回如月まつり

地域との連携として、文学館東隣りの男山八幡神社厄神祭の開催日にあわせて開催。常設展を無料開放した。
緊急事態宣言をうけ、例年行っていた姫路文学館友の会ボランティアによる常設展ガイド、古本市は中止した。

日　時　　令和３年２月18日（木）・19日（金）　午前10時～午後５時
会　場　　姫路文学館
来場者　　392人

◯常設展（企画展）無料開放
企画展「没後60年記念　歌人岸上大作展」（北館）も見ていただいた。
◯文学館クイズラリー
子どもたちでも楽しめるような文学館の展示内容に関するクイズを作成し、答えを探しながら見学していただいた。

8　講座・読書会

当初、いずれも４月から全10回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、４月から９月までは休講し、受講料を半額にして下半期の10月から全５回開催した。

（１）古典文学講座「源氏物語の世界」

講　師　　中川正美（梅花女子大学名誉教授）
会　場　　姫路文学館　講堂
日　時　　原則として第２金曜日　午前10時30分～12時
受講料　　（５回通しで）2,500円
受講者　　88人

日程と内容

令和２年 10月９日（金）　蛍巻①兵部宮訪問
　　11月13日（金）　蛍巻①兵部宮訪問
　　12月11日（金）　常夏巻①和琴の伝授
令和３年 １月８日（金）　常夏巻②頭中将の娘たち
　　３月12日（金）　篝火巻

（２）文学思想講座「よりよく自己を生きるために　「ひと」が「生きる」」

講　師　　岡田勝明（姫路獨協大学教授）
会　場　　姫路文学館　講堂
日　時　　原則として第１木曜日　午前10時～11時30分
受講料　　（５回通しで）2,500円
受講者　　161人

日程と内容

令和２年 10月１日（木）、15日（木）　山本七平『渋沢栄一 近代の創造』
　　11月５日（木）、19日（木）　大庭みな子『津田梅子』
　　12月３日（木）、17日（木）　白洲正子『西行』
令和３年 １月14日（木）、21日（木）　安藤礼二『大拙』
　　２月４日（木）、25日（木）　春見文勝『禅に生きる傑僧　南天棒』

（3）市民名作講座「「近現代文学中の名作」に挑む」

講　師　　菅原美文（近現代文学を読む会主宰）
会　場　　姫路文学館　会議室
日　時　　原則として毎月第３木曜日　　午前９時30分～11時30分
参加者　　15人

課題図書
令和２年10月15日（木）　ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』新潮文庫
　　亀山郁夫『大審問官スターリン』岩波現代文庫
11月19日（木）　夏目漱石『定本夏目漱石全集　22・23・24（書簡集）』岩波書店
12月17日（木）　西崎雅夫『関東大震災　朝鮮人虐殺の記録』現代書館
令和３年１月28日（木）　ツルゲーネフ『父と子』新潮文庫
　　国木田独歩『武蔵野』岩波文庫
２月25日（木）　オルガ・トカルチュク『逃亡派』白水社

（4）「司馬遼太郎の「覇王の家」「燃えよ剣」「街道をゆく」「この国のかたち」などを読む」読書会

南館・司馬遼太郎記念室において常設展示している司馬遼太郎の作品を読む読書会。参加者が、課題図書の内容にそって考えを自由に述べあい、作品の理解を深めることを目的とする。
令和２年度は、コロナ禍のため下半期のみの実施となり、映画が封切られる「燃えよ剣」、家康、秀吉をとりまく人々を描く「覇王の家」、昨年度未実施となった「八人との対話」などの作品を取り上げた。

会　場　　姫路文学館　講堂
日　時　　原則として毎月第２土曜日　午前９時30分～12時
参加者　　27人

課題図書
令和２年10月10日（土）　「覇王の家」
11月14日（土）　「八人との対話」
12月12日（土）　「歴史の舞台　文明のさまざま」
令和３年２月13日（土）　「燃えよ剣」
３月13日（土）　「街道をゆく15　北海道の諸道」

9　博物館実習・「トライやる・ウィーク」

■博物館実習

学芸員資格取得の講座を持つ下記の大学からの依頼をうけ、次のとおり実施した。

期　間　　令和２年８月５日（水）～９日（日）　計５日間
実習生　　岡山大学１名

	午　前		午　後	
8月5日（水）	9:30～10:00 オリエンテーション 課題（企画展立案）説明	閲覧室	13:00～14:00 文学館活動概説	閲覧室
	10:00～12:00 館内見学 ・常設展 ・特別展「宮西達也展」	館内	14:15～15:30 現代播磨ゆかりの作家たち	
			15:45～17:00 企画展の実務の流れ	
8月6日（木）	9:30～10:30 掛軸・巻子の取り扱い	閲覧室	13:00～14:00 課題（企画展立案）のテーマ検討・自習	閲覧室
	10:45～12:00 資料の状態チェック、調書の実務		14：30～16：30 歴博特別展「驚異と怪異」見学	兵庫県立歴史博物館
			16：30～17：00 翌日開催・司馬遼太郎メモリアル・デー説明	閲覧室
8月7日（金）	９：30～10:30 課題（企画展立案）のテーマ検討、自習	閲覧室	10:30～17:00 司馬遼太郎メモリアル・デー補助	姫路市市民会館
8月8日（土）	9:30～10:30 キャプション、企画展リード文等の作成	閲覧室	13:00～14:00 資料の展示・保存環境	閲覧室
	10:45～12:00 キャプション、企画展リード文等の作成		14：15～15：15 館内補助作業	
			16：00～17：00 課題（企画展立案）のテーマ検討、自習	
8月9日（日）	9:30～12:00 企画展構想　発表準備	閲覧室	13:00～14:00 課題（企画展立案）の発表	館長室 閲覧室
			14:15～17:00 館作業補助 実習ノートまとめ	

■トライやる・ウィーク

兵庫県が平成10年度から県内の中学２年生を対象として実施している地域での体験活動週間。令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、姫路市教育委員会の判断により中止した。

10　出前講座

実 施 日	出 講 先	内　　容	講　　師
8月18日	姫路市立城の西公民館	和辻哲郎と日本倫理思想史	徳重公美学芸員
8月26日	姫路市立飾磨橋東公民館	飾磨出身の直木賞作家　車谷長吉の人と作品	竹廣裕子学芸課課長補佐
10月6日	高砂市教育センター	姫路文学館の魅力と特別展「樋口一葉展」について	甲斐史子学芸課長
10月13日	繁昌亭（大阪市）	皿屋敷よもやま話	甲斐史子学芸課長
10月21日	賢明女子学院中学校	学芸員の仕事	杉田陽子学芸課主任
10月25日	兵庫県立歴史博物館	史料と文学作品からみた千姫像	甲斐史子学芸課長
12月10日	高砂市教育センター	姫路文学館の魅力と企画展「岸上大作展」について	竹廣裕子学芸課課長補佐

11　出版活動

姫路文学館では、展覧会に際しての図録やパンフレットの制作、館報「手帖・姫路文学館」や目録、紀要の発行等を行っている。

（1）姫路文学館紀要の発行

学芸部門の研究成果を世に問う場として、平成9年度より紀要を発行している。(年刊)

『姫路文学館紀要　№24』

令和3年3月31日　　編集・発行／姫路文学館

A5判　176頁　300部　￥800

内容　〔第22回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演、質疑応答〕

□講演「歴史小説とは何か－大佛次郎『天皇の世紀』と司馬遼太郎『坂の上の雲』を巡って－」辻原登（作家）

□質疑応答　　辻原登　上村洋行　（進行：田名部真理）

〔資料紹介〕

椎名麟三自筆資料・画像ＰＤＦファイル〈一覧表・内容索引表〉　玉田克宏

（2）年報の制作

『姫路文学館　年報　第28号（平成31年度・令和元年度)』

令和2年9月1日　編集・発行／姫路文学館

A4判　70頁　非売品

（３）館報「手帖･姫路文学館」の定期発行

年４回　　令和２年４月１日（第115号）　　令和２年７月１日（第116号）
令和２年10月１日（第117号）　　令和３年１月１日（第118号）
A4判　８頁　非売品


手帖 姫路文学館 115号


116号


117号


118号

12　姫路文学館コンサート

音楽ボランティアとして演奏者やグループを募り、次のとおり実施した。

回数	日 程	曜	時 間	出演者名（団体・個人）	ジャンル	演奏形態・楽器	会場	参加者数（人）
—	令和２年 ４月６日	土	14:00 ～14:40	兵庫県立福崎高等学校 コーラス部	混声合唱	合唱	講堂	中止
—	４月12日	日	14:00 ～14:40	Cure-S	オカリナ アンサンブル	合奏	講堂	中止
—	４月25日	土	14:00 ～15:00	2Violins～ヴァイオリンデュオの愉しみ～	クラシック	ヴァイオリン・ピアノ	講堂	延期
—	５月17日	日	14:00 ～14:40	桜会	古典芸能	三味線・尺八・太鼓・鐘、他	講堂	延期
—	６月６日	土	14:00 ～14:45	tetote	鍵盤楽器	合奏（鍵盤ハーモニカ・アコーディオン）	講堂	中止
1	12月20日	日	13:00 ～13:45	Sweet Bell	ハンドベル	ハンドベル演奏	講堂	60
参加者合計								60

資 料 概 要

1　資料収集状況

（1）令和２年度収集資料数

※登録番号を採番した（整理をおこなった）資料の数。

種別	購入	寄贈	制作	その他	計
書籍・雑誌	477	866	14	1	1,358
原稿	1	39		3	43
書簡	16	140			156
書画・墨蹟		71		6	77
その他		330		332	662
写真		17			17
映像・音声				3	3
レプリカ					
計	494	1,463	14	345	2,316

資料総数　約17万７千点

主な新資料

〔寄贈〕

佐藤文夫・仁科又亮氏　遠地輝武原稿「りょうらんのいのちおわり」1点

樽見博氏　俳誌「炉」（永田耕衣関係誌）18冊

髙橋一根氏　永田耕衣書画等　20点

山野博史氏　柳田國男関連資料　書籍309点、雑誌10点、その他資料27点

〔購入〕

和辻哲郎草稿「心理学的に見たる独逸史概観（ラムプレヒト）」　１点

佐多稲子草稿　１点

山口茂吉　斎藤茂吉宛葉書　　７通９枚

（2）情報検索システム登録件数（令和３年５月26日現在）

種別	件数
書籍	68,892
雑誌	51,257
書簡	10,147
書画・遺墨	1,708
原稿	4,463
写真	398
映像・音声	997
その他	11,464
文人基本データ	322
デジタルアーカイブ	1,336
絵本・児童書	1,632
計	152,616

システム開発　株式会社プラグイン（旧・環境総合研究所）

2　協力者一覧（50音順　敬称略）

【個人】

麻生直子	安水稔和	石崎　等	岩根雅彦	岩田健三郎	内田青虹	大沼宣規
小川弘子	小澤紘司	小野はつね	川口素生	川合方千春	季村敏夫	楠　勝明
近藤健史	サイモン・ロウ	佐藤岳俊	佐藤日田路	佐藤文夫	杉浦詩子	鈴木　漠
髙島愼助	高橋夏男	髙橋一根	髙橋夏男	田口麻奈	樽見　博	坪内稔典
田　彰子	中野文擴	中元孝迪	夏石番矢	夏目ゆき	難波正司	新倉俊一
西村麒麟	長谷川啓	初井知也	林　桂	原圃佐知子	福島泰樹	堀澤光栄
前田隆弘	増田まさみ	増田一郎	真銅正宏	丸山珪一	森嶋郁子	柳谷郁子
山本淑美						

【法人】

會津八一記念館	青森県立郷土館	青森県立近代文学館	明石市立天文科学館	秋田県立博物館
赤穂義士顕彰会	赤穂市立美術工芸館田淵記念館	赤穂市立歴史博物館	あさご芸術の森美術館	旭川市井上靖記念館
芦屋市谷崎潤一郎記念館	梓俳句会	尼崎芸術文化協会	尼崎市文化振興財団	尼崎市立歴史博物館田能資料館
有島記念館	飯田市美術博物館	石川近代文学館	石川県西田幾多郎記念哲学館	石川県立美術館
石坂洋次郎文学記念館	泉鏡花記念館	一茶記念館	糸魚川歴史民俗資料館	印南野半どんの会
井上靖記念館	井上靖記念文化財団	茨木市立川端康成文学館	いぶき発行所	公益財団法人いわき市教育文化財団
いわき市立草野心平記念文学館	岩手県立博物館	印刷博物館	映像産業振興機構	特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター
円虹発行所	大洗町幕末と明治の博物館	大倉精神文化研究所	大阪国際児童文学振興財団	大阪俳句史研究会
大阪歴史博物館	大田区立龍子記念館	大手前大学史学研究所	大原富枝文学館	岡山シティミュージアム
岡山大学文学部学芸員課程専門委員会	小川未明文学館	大佛次郎記念館	小野市立好古館	貝の会
香川県立歴史ミュージアム	学習院大学上代文学研究会	学習院大学史料館	かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館	霞城館
火星俳句会	神奈川近代文学館	公益財団法人神奈川文学振興会	公益財団法人金沢文化振興財団	金沢文芸館
金沢湯涌夢二館	公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体	鎌倉文学館	蒲郡俊成短歌大会実行委員会	軽井沢高原文庫
河井継之助記念館	川崎市市民ミュージアム	関西俳誌連盟	菊池寛記念館	北九州市立文学館
北九州市立松本清張記念館	京都市学校歴史博物館	京都府京都文化博物館	京都府文化スポーツ部文化芸術課	虚子記念文学館
銀河書籍	吟遊社	九年母会	窪田空穂記念館	熊平製作所
桑名市博物館	群馬県立土屋文明記念文学館	現代川柳研究会	現代短歌を読む会	高知県越知町立横倉山自然の森美術館
高知県立文学館	神戸女子大学古典芸能研究センター	神戸市立小磯記念美術館	神戸市立博物館	神戸深江生活文化資料館
交友プランニングセンター	郡山市文学資料館郡山久米正雄記念館	こおりやま文学の森資料館	國學院大學	國學院大學博物館学研究室
国際日本文化研究センター	越谷市立図書館野口冨士男文庫	高志の国文学館	コスモス短歌会姫路支部	小諸市教育委員会
さいたま市教育委員会	さいたま文学館	埼玉文芸家集団	斎藤茂吉記念館	坂の上の雲ミュージアム
炸短歌会	佐佐木信綱顕彰会	詩歌探究社蓮	詩人会議	司馬遼太郎記念館

思文閣
紫明の会
自由律俳句結社「青穂」
勝央美術文学館
新宮市佐藤春夫記念会
新宿区立漱石山房記念館
新葉館出版
杉発行所
スプリング
青群俳句会
成城大学民俗学研究所
公益財団法人世界人権問題研究センター
世界俳句協会
世田谷文学館
せたがや文化財団
仙台文学館
船団の会
相馬御風記念館
太子町立歴史資料館
高岡市万葉歴史館
高砂市教育委員会
竹中大工道具館
鷹俳句会
高山市市民活動部生涯学習課
高山市文化協会
たつの市室津海駅館
田鶴発行所
鬣の会
館林市教育委員会
田山花袋記念文学館
短歌ぐるうぷ象の会
短歌人会
丹生短歌会
淡水俳句会
遅筆堂文庫
公益財団法人ちゅうでん教育振興財団
ちゅうでん教育振興財団
壺井栄文学館
東京都江戸東京博物館
東京都台東区中央図書館
文芸同人誌「彩雲」
藤村記念館
鳥取県立博物館
時の川柳社
徳島県立文学書道館
徳田秋聲記念館
鳥羽水族館
富山市郷土博物館
長崎市遠藤周作文学館
中原中也記念館
中村元記念館東洋思想文化研究所
新美南吉記念館
西宮芸術文化協会
西播磨文化講座委員会
西脇順三郎を偲ぶ会
日本歌人クラブ
日本近代音楽館
日本近代文学館
日本現代詩歌文学館
女人随筆社
公益社団法人沼津牧水会
野田宇太郎顕彰会
公益社団法人俳人協会・俳句文学館
俳人協会
萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
白圭社
原阿佐緒記念館
播磨学研究所
播磨町郷土資料館
阪急文化財団
姫路科学館
姫路歌人クラブ
姫路コンベンションビューロー
姫路市教育委員会市史編集室
姫路市書写の里・美術工芸館
姫路市文化国際交流財団
姫路市立城郭研究室
姫路市立城内図書館
姫路市立水族館
姫路市立動物園
姫路市立美術館
ひめじ読書友の会
姫路文学会
姫路文学人会議
日矢俳句会
兵庫県歌人クラブ
兵庫県現代詩協会事務局
兵庫県俳句協会
兵庫県立考古博物館
兵庫県立大学・豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科
兵庫県立美術館
兵庫県立歴史博物館
兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
ひょうご歴史研究室
ひろば俳句会
福井県ふるさと文学館
福崎町教育委員会
福崎町立柳田國男・松岡家記念館
ふくやま文学館
文学圏社
文京区立森鷗外記念館
文京ふるさと歴史館
「火垂るの墓」記念碑建碑実行委員会
公益財団法人北海道立文学館
町田市立自由民権資料館
松の花俳句会
松山市立子規記念博物館
三浦綾子記念文化財団
美加志保短歌会
一般社団法人岬の分教場保存会
三鷹市山本有三記念館
南相馬市埴谷・島尾記念文学資料館
宮柊二記念館
三好達治賞実行委員会事務局
椋鳩十文学記念館
調布市武者小路実篤記念館運営事業団
調布市武者小路実篤記念館
室生犀星記念館
麟の木俳句会
森鷗外記念館
森はな顕彰会
やまぐに俳人会
山田風太郎記念館
大和文華館
山梨県立文学館
やまなし文学賞実行委員会事務局
横尾忠則現代美術館
与謝野晶子倶楽部
吉村昭記念文学館
らん編集部
六花出版
立命館大学国際平和ミュージアム
ロマネコンティ俳句ソシエテ
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
わちふぃーるどライセンシング株式会社

3　文学館資料の貸出状況

貸　出　先	展 覧 会 名 等	貸出期間等	資　　料　　名
兵庫県立歴史博物館	特別展「女たちのひょうご　―千姫から緒方八重まで―」令和２年10月３日～11月23日	令和２年９月18日～12月４日	千姫姿絵（複製）　１点
司馬遼太郎記念館	企画展「『峠』―河井継之助は何を見据えたか」令和３年3月16日～10月31日	令和３年３月５日～	寄託資料　司馬遼太郎『峠』自筆原稿10回分　計40枚

4　文学館資料の出版物等掲載状況

掲載許可先	掲載番組・書籍等	提供資料・期間等
公益財団法人 日本近代文学館	2021年度夏季企画展「教科書のなかの文学」パネル展示／『教科書と文学』（日本近代文学館編・秀明大学出版会発行）	夏目漱石　松尾寛一宛書簡（大正３年４月24日）手紙全文、封筒表・裏 画像データ支給
森はな顕彰会	森はな顕彰会　ホームページ	森はな肖像など関連画像　計６点 画像データ支給
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	令和３年度特集展示「生誕100年　五味康祐」パネル展示	五味康祐　山田十三代宛書簡　計６点 五味康祐　幼少期等写真　計４点 画像データ支給
公益財団法人 日本近代文学館	2021年度夏季企画展「教科書のなかの文学」パネル展示	松尾寛一　所蔵写真 1点 データ支給

運 営 管 理

1　利用状況

（1）入館者数

令和２年度（2020年度）常設展観覧者数　〔単位：日、人〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	0	0	25	27	26	26	27	24	21	23	22	26	247
一般	0	0	103	599	923	398	400	373	116	150	181	309	3,552
大・高	0	0	2	19	60	34	16	17	3	2	9	30	192
中・小	0	0	5	162	363	101	12	16	1	4	4	27	695
団体一般	0	0	22	524	791	230	389	359	65	54	56	102	2,592
団体大高	0	0	2	16	29	5	38	6	5	0	1	4	106
団体中小	0	0	0	147	231	194	6	252	3	53	17	255	1,158
その他	0	0	22	769	1,441	660	510	889	181	62	182	103	4,819
合計	0	0	156	2,236	3,838	1,622	1,371	1,912	374	325	450	830	13,114

※4月～5月は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館。

令和２年度（2020年度）企画展観覧者数　〔単位：人〕

企画展	12月5日～3月21日 80日 歌人岸上大作展	合計 開催日数80日
一般	692	692
大学生・高校生	39	39
中学生・小学生	14	14
団体　一般	259	259
団体　大学生・高校生	8	8
団体　中学生・小学生	328	328
招待等	479	479
幼稚園以下	10	10
合計	1,829	1,829

令和２年度（2020年度）特別展観覧者数　〔単位：人〕

特別展	7月10日～9月6日 51日 宮西達也Newﾜﾝﾀﾞｰﾗﾝﾄﾞ展 －ヘンテコリンな絵本の仲間たち	10月3日～11月23日 44日 樋口一葉 その文学と生涯展	合計 開催日数95日
一般	1,604	624	2,228
大学生・高校生	102	30	132
中学生・小学生	615	26	641
団体　一般	1,493	721	2,214
団体　大学生・高校生	46	44	90
団体　中学生・小学生	433	257	690
招待等	1,300	1,238	2,538
幼稚園以下	1,535	19	1,554
合計	7,128	2,959	10,087

※「ダヤンと不思議な劇場　池田あきこ原画展」（4/18～6/17）は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

令和２年度文学館利用状況（再掲）	
常設展・特別企画展入館者（◎）	13,114人
施設利用者	6,374人
その他行事参加者	22,043人
合計	41,531人

◎常設展・企画展・特別展観覧者　内訳	
特別展	10,087人
常設展（企画展開催中）	1,829人
常設展（企画展なし）	1,198人

※特別展または企画展を観覧した人数は、11,916人

入館者数（貸館利用者等を含む）

年　度	開館日数（日）	来館者数（人）		再掲：うち観覧者数（人）			
		来館者数(人)	累計（人）	観覧者数(人)	累計（人）	再々掲：うち特別企画展（人）	（日数）
平成3年度	300	70,427	70,427	44,575	44,575	37,090	204
平成4年度	298	62,755	133,182	32,268	76,843	25,263	171
平成5年度	296	45,104	178,286	24,571	101,414	20,242	196
平成6年度	298	48,134	226,420	23,276	124,690	18,292	134
平成7年度	299	37,224	263,644	13,524	138,214	7,328	78
平成8年度	297	59,602	323,246	29,961	168,175	23,233	141
平成9年度	298	34,522	357,768	14,050	182,225	9,484	134
平成10年度	298	33,995	391,763	16,824	199,049	10,752	160
平成11年度	296	39,383	431,146	23,470	222,519	10,969	120
平成12年度	300	34,885	466,031	16,838	239,357	7,885	116
平成13年度	300	34,055	500,086	16,123	255,480	8,017	123
平成14年度	300	37,284	537,370	15,756	271,236	7,159	130
平成15年度	300	48,264	585,634	26,830	298,066	17,572	141
平成16年度	298	35,979	621,613	14,780	312,846	7,522	133
平成17年度	301	39,694	661,307	14,677	327,523	7,959	117
平成18年度	303	46,445	707,752	16,327	343,850	8,959	131
平成19年度	303	43,738	751,490	14,234	358,084	7,652	131
平成20年度	303	58,002	809,492	26,740	384,824	16,672	122
平成21年度	300	63,529	873,021	28,564	413,388	13,870	135
平成22年度	299	96,391	969,412	53,210	466,598	25,396	146
平成23年度	304	93,474	1,062,886	59,631	526,229	29,515	147
平成24年度	305	139,059	1,201,945	83,021	609,250	39,091	140
平成25年度	302	75,030	1,276,975	37,148	646,398	16,161	175
平成26年度	301	70,686	1,347,661	34,189	680,587	14,720	139
平成27年度	60	34,278	1,381,939	18,176	698,763	9,150	45
平成28年度	198	71,108	1,453,047	20,398	719,161	18,341	186
平成29年度	302	70,255	1,523,302	16,067	735,228	14,047	254
平成30年度	303	95,077	1,618,379	26,660	761,888	24,270	253
令和元年度	279	95,497	1,713,876	29,704	791,592	27,804	242
令和2年度	247	41,531	1,755,407	13,114	804,706	11,916	175

（２）施設見学受付状況

日程	曜	団体・個人名	人数（人）	備考
令和2年　7月29日	水	ＫＢＣインターナショナルスクール	13人	特別展展示見学
8月27日	木	網干保育園	37人	特別展展示見学
9月1日	火	認定こども園　のぎ保育園	30人	特別展展示見学
9月2日	水	認定こども園　のぎ保育園	30人	特別展展示見学
9月3日	木	姫路市立城乾幼稚園	32人	特別展展示見学
9月4日	金	児童発達支援事業所ここ	13人	特別展展示見学
9月4日	金	姫路市立城西幼稚園	29人	特別展展示見学
9月25日	金	淳心学院中学校	146人	展示見学
10月6日	火	兵庫県立姫路東高等学校	33人	展示見学
10月23日	金	姫路市立城乾公民館	23人	特別展展示解説、展示見学
10月23日	金	姫路市立高岡公民館	19人	特別展展示解説、展示見学
11月6日	金	姫路市立城東公民館	13人	特別展展示解説、展示見学
11月6日	金	姫路市立網干中学校	131人	展示見学
11月11日	水	姫路市立広嶺中学校	46人	展示見学
11月12日	木	伊丹市立松崎中学校	40人	展示見学
11月13日	金	姫路市立四郷学院	25人	展示見学
11月13日	金	平和資料館	2人	展示見学
11月25日	水	姫路市老連歩こう会（水上校区）	80人	展示解説
12月4日	金	神戸市立神陵台中学校	5人	展示見学
12月18日	金	姫路市立家島中学校	3人	展示見学
令和3年　1月27日	水	姫路市立東中学校	55人	展示見学
2月5日	金	姫路市立夢前中学校	17人	展示見学
3月5日	金	姫路市立夢前中学校	76人	展示見学
3月16日	火	高砂市立竜山中学校	105人	展示見学
3月16日	火	白陵中学校	38人	展示見学
3月19日	金	神戸市立大原中学校	40人	展示見学

（３）館使用者数

令和２年度（2020年度）館使用状況　〔単位：件、人〕

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合　計			
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
講堂	午前	0	0	0	0	1	30	0	0	3	72	3	88	10	399	9	348	8	287	3	131	3	155	3	71	43	1,581		
	午後	0	0	0	0	2	57	1	50	4	187	7	255	8	372	4	229	8	305	4	162	3	142	6	190	47	1,949	126	5,366
	全日	0	0	0	0	0	0	1	80	0	0	7	167	5	461	7	306	3	143	3	57	5	201	5	421	36	1,836		
和室	午前	4	21	0	0	1	7	3	20	3	16	2	10	3	15	12	72	5	29	1	10	1	5	6	36	41	241		
	午後	4	18	0	0	2	15	2	8	5	27	4	26	3	13	11	61	9	51	1	4	3	10	5	35	49	268	95	552
	全日	0	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	25	5	43		
茶室	午前	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	4	13		
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	1	3	1	8	0	0	3	15	12	42
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	5	14		
洋間	午前	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	1	7	3	17		
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14	1	10	0	0	1	9	2	28	2	17	8	78	13	95
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0		
特展室	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	120
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	120		
会議室等	午前	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	2	21	1	10	2	19	1	10	1	10	1	10	9	87		
	午後	0	0	0	0	1	10	1	10	1	7	1	10	1	10	1	10	1	10	1	10	0	0	0	0	8	77	23	199
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	1	5	1	14	1	7	0	0	0	0	0	0	6	35		
合計		8	39	0	0	8	131	11	175	18	312	32	687	36	1,316	48	1,064	37	851	18	416	19	559	38	824	273	6,374	273	6,374

（４）資料特別観覧申請

令和２年度（2020年度）資料特別観覧状況

区　　分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
熟　　覧			件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	0件	2件
複写	電子複写機使用		枚数	0件	0件	0件	10件	0件	0件	24件	23件	34件	3件	0件	29件	123件
			金額	0円	0円	0円	200円	0円	0円	480円	460円	680円	60円	0円	580円	2,460円
撮影	新規撮影	学術用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	5件	5件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	1,050円	1,050円
		その他用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	フィルム貸出し・データ提供	学術用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
		その他用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
合　　計				0円	0円	0円	200円	0円	0円	480円	460円	680円	60円	0円	1,630円	3,510円

（５）出版物等販売数

令和２年度（2020年度）復刻本等売払い状況

（単位：円、冊）

		単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
書籍・雑誌	自叙伝の試み	2,800													0	0
	城	1,400					1						3	1	5	7,000
	井上通泰伝	600							1		1	1			3	1,800
	芳水詩集	1,500				1									1	1,500
	明治時代の歴史学界	2,300										1			1	2,300
	猫背の散歩	1,200						1					1		2	2,400
	野球美談	1,500							1						1	1,500
	意志表示	470				1		1	1		19	16	17	48	103	48,410
	冬至梅	1,500													0	0
	冬の宿	460												1	1	460
	自由の彼方で	1,500										1	1		2	3,000
	播磨の文学	2,300													0	0
	阿部知二　道は晴れてあり	2,000													0	0
	夫和辻哲郎への手紙	680							1						1	680
	妻和辻照への手紙（上）	800													0	0
	妻和辻照への手紙（下）	780													0	0
	邂逅	1,600													0	0
	播磨古歌考	3,000						1							1	3,000
	近代播磨文学史	1,800													0	0
	第一阿房列車	490						1							1	490
	恋うたの現在	1,300					1								1	1,300
	愛の手紙	2,200				1									1	2,200
	椎名麟三戯曲選	2,000													0	0
	評伝・岸上大作	1,800									1				1	1,800
	初井しづ枝文庫目録	500													0	0
	紀要N03～23	800		1	2		7	1		2	4	2	5	7	31	24,800
図録	和辻哲郎展	1,000						1		1		1		1	4	4,000
	酒井宗雅展	1,000					1						2		3	3,000
	松岡五兄弟展	1,200					1								1	1,200
	森はな展	1,200												1	1	1,200
	播磨文芸祭：繚乱の季節	1,000					1								1	1,000
	有本芳水展	1,200												1	1	1,200
	二人のヨーロッパ展	1,200				1						1			2	2,400
	泉鏡花と「天守物語」展	1,200						1	1			2			4	4,800
	お夏清十郎展	1,200						1							1	1,200
	あの日の子どもたち展	1,200									1			1	2	2,400
	ごんぎつねの世界	800								1					1	800
	作家車谷長吉展	1,200				1	2	1		1					5	6,000
	黒田官兵衛の魅力	500				1		2							3	1,500
	官兵衛と軍師を描いた文豪たち展	600								1					1	600
	夏目漱石　漱石山房の日々展	700						1	1			1		1	4	2,800
	姫路文学館ガイドブック	400			2	5	4		7	10	4	3	1	4	40	16,000
	時実新子展	600	1												1	600
	五十嵐播水展	600				7				1			1		9	5,400
	永田耕衣展	700	8	3	2	1	3	3	4			1	1	1	27	18,900
	樋口一葉展	1,000							81	94	4			1	180	180,000
	没後60年岸上大作展	1,000									72	27	24	73	196	196,000
しおり＋ポストカード		250							6	4	2			2	14	3,500
合計		冊数	9	4	6	19	21	15	104	115	108	57	56	143	657	657
		金額	6,200	2,900	3,800	13,970	17,600	14,360	93,250	104,800	93,830	47,720	46,590	112,120	557,140	557,140

暗唱ノート

	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
暗唱ノート５年	400			1		1			1					3	1,200
暗唱ノート６年	400			1		1						1		3	1,200
暗唱ノート基礎	400			1										1	400
暗唱ノート発展	400			1								1		2	800
合計				4		2			1			2		9	3,600

月別販売金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
復刻本	0	800	1,600	4,170	8,300	5,960	3,250	1,600	14,530	13,520	18,890	30,020	102,640
図録	6,200	2,100	2,200	9,800	9,300	8,400	88,500	102,200	78,800	34,200	27,700	81,600	451,000
グッズ	0	0	0	0	0	0	1,500	1,000	500	0	0	500	3,500
暗唱ノート	0	0	1,600	0	800	0	0	400	0	0	800	0	3,600
計	6,200	2,900	5,400	13,970	18,400	14,360	93,250	105,200	93,830	47,720	47,390	112,120	560,740

2　組織および分掌事務

（令和３年３月31日現在）

館長 *1人

副館長 1人

総務課　3人
- 課　長　1人
- 係　長　1人
- 主　事　1人

ア　姫路文学館の維持及び管理並びに使用許可に関すること。
イ　公印の管守に関すること。
ウ　観覧料等公金の徴収に関すること。

学芸課　6人
- 課　長　1人
- 課長補佐　1人
- 主　任　1人
- 主　事　2人
- 1人

ア　文学に関する資料の収集、保管及び展示に関すること。
イ　文学に関する調査研究及び研究書、解説書等の刊行に関すること。
ウ　文学に関する展覧会、研究会、講演会、講習会等の開催に関すること。
エ　和辻哲郎文化賞に関すること。
オ　文学の振興及び普及に関すること。

*は非常勤嘱託

職員名簿

（令和３年３月31日現在）

館　長	藤原正彦	学芸課課長・学芸員	甲斐史子
副館長	田中富美子	課長補佐・学芸員	竹廣裕子
総務課課長	福田美揮子	主任・学芸員	杉田陽子
係長	蟹井真人	主事・学芸員	徳重公美
主事	幸川未来	主事・学芸員	市太佐知
		学芸員	玉田克宏

3　予算の概要

令和２年度（２０２０年度）一般会計歳出予算

款	５５　教　育　費	項	３８　文化振興費	目	４８　文　学　館　費	（単位：千円）

節 区分	金額	説明
8　報償費	１２，２６１	文学館の管理運営等に要する経費 管理運営経費　９７，８９５ 教育普及活動費　７，８０２ 和辻哲郎文化賞経費　１０，２４２ 特別企画展経費　１８，４９０ 資料収集経費　５，７９３ 施設整備事業費　６，０００ 負担金　１００ （加入団体会費　８８ 出席者負担金　１２）
9　旅費	２，３２７	
11　需用費	３３，６１２	
12　役務費	２，９５１	
13　委託料	８９，２７４	
14　使用料及び賃借料	４，７９８	
15　工事請負費	0	
18　備品購入費	９９２	
19　負担補助金及び交付金	１００	
27　公課費	7	
計	１４６，３２２	１４６，３２２

令和２年度（２０２０年度）一般会計歳入予算

（単位：千円）

款	節		説明
使用料及び手数料	文学館使用料	１，００７	文学館施設占用使用料、目的外使用料、資料複写料
	文学館目的外使用料	１，５７６	
	文学館特別観覧手数料	５４	
財産収入	復刻本等売払収入	１，２３３	復刻本・常設展図録・企画展図録等
諸収入	文学館常設展観覧料	８１４	
	文学館企画展観覧料	６，８００	ダヤンと不思議な劇場　池田あきこ原画展 宮西達也Newワンダーランド展 樋口一葉　その文学と生涯展
	文学館共益費等収入	２３１	喫茶・自動販売機電気代等
	文学館教育普及活動事業参加負担金	４，３９０	夏季大学、日本文化・文学思想講座、絵本づくり等
合計		１６，１０５	

施設の概要（令和３年３月31日現在）

文学館構造・規模

敷地面積	18,003㎡
建築面積	3,157㎡
北館	1,324㎡
南館	1,360㎡
望景亭	444㎡
書斎風建物	29㎡
延床面積	6,852㎡

北館	鉄骨鉄筋コンクリート造	3,815 ㎡	南館	鉄筋コンクリート造	2,564 ㎡
	●地下１階	1,067 ㎡		●地下１階	1,485 ㎡
	作業室	54 ㎡		収蔵庫	117 ㎡
	ボランティア室	17 ㎡		会議室	73 ㎡
	研究室	36 ㎡		一時保管庫	36 ㎡
	撮影室	16 ㎡		駐車場	786 ㎡
	消毒室	16 ㎡		その他	473 ㎡
	収蔵庫	412 ㎡		●１階	573 ㎡
	その他	516 ㎡		司馬遼太郎記念室	99 ㎡
	●１階	1,134 ㎡		さんかくギャラリー	76 ㎡
	エントランスホール	64 ㎡		よいこのへや	47 ㎡
	姫路城歴史ものがたり回廊	277 ㎡		カフェ	81 ㎡
	ことばの森展示室	283 ㎡		その他	270 ㎡
	その他	510 ㎡		●２階	506 ㎡
	●２階	990 ㎡		図書室	96 ㎡
	企画展示室・和辻展示室	208 ㎡		事務室	80 ㎡
	特別展示室	225 ㎡		閲覧室	39 ㎡
	体験交流ひろば①	65 ㎡		その他	291 ㎡
	体験交流ひろば②	54 ㎡			
	その他	438 ㎡			
	●３階	511 ㎡	望景亭	木造平屋建瓦葺	444 ㎡
	講堂	250 ㎡		和室	131 ㎡
	準備室	29 ㎡		茶室	40 ㎡
	講師控室	29 ㎡		洋間	65 ㎡
	ホワイエ	58 ㎡		その他	208 ㎡
	その他	145 ㎡			
	●塔屋	113 ㎡	書斎風建物	木造平屋建瓦葺	29 ㎡

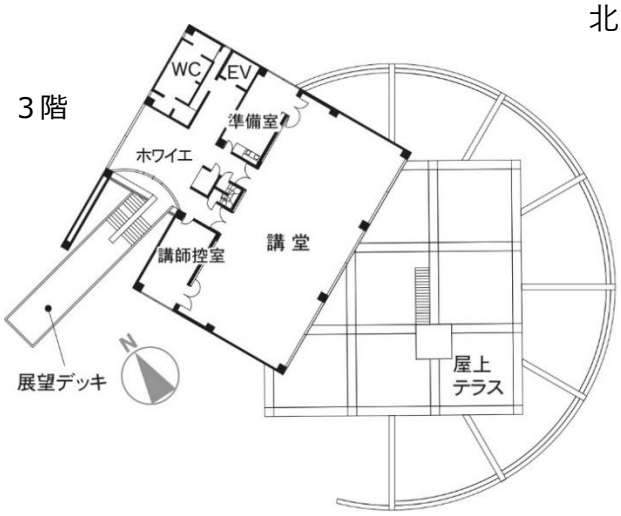
建築費（単位：百万円）	北館	南館
総額	2,605	2,568
建築工事	1,951	1,278
展示工事	550	429
用地費	104	861

大規模施設整備費（北館・南館・外構を同時に整備）（単位：百万円）

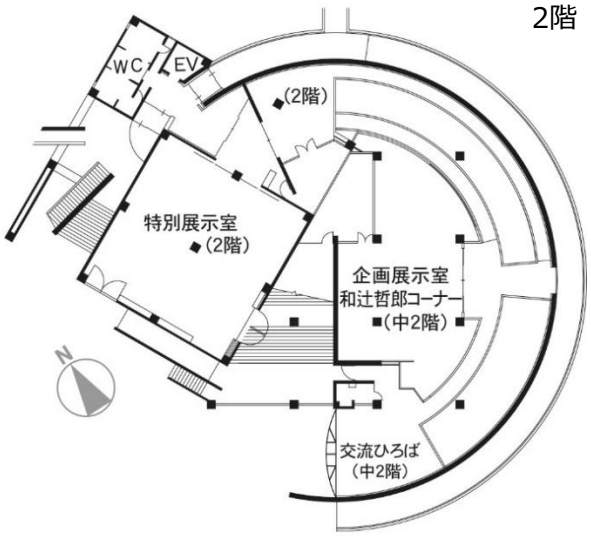
総額	1,993
大規模改修工事	1,415
展示更新制作	578

北　館

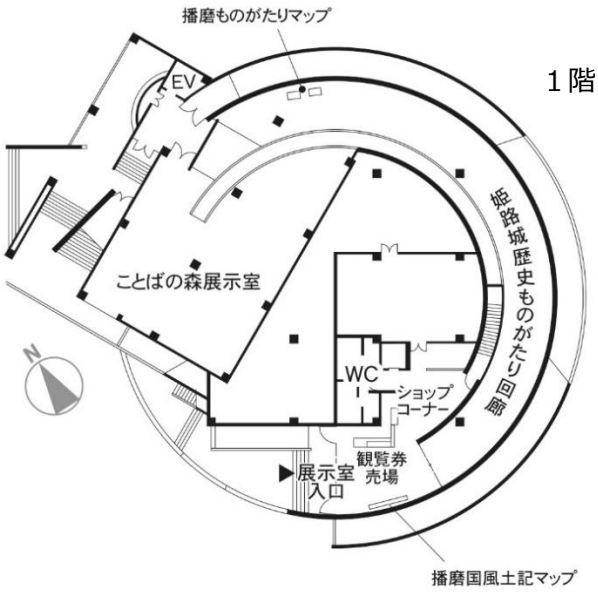
3階



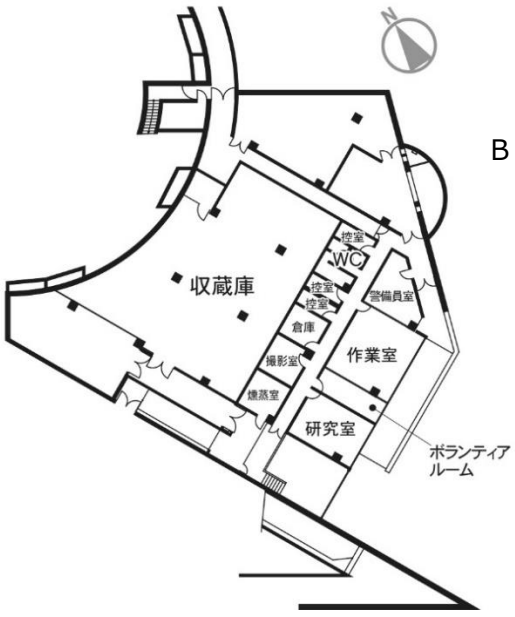
2階



1階

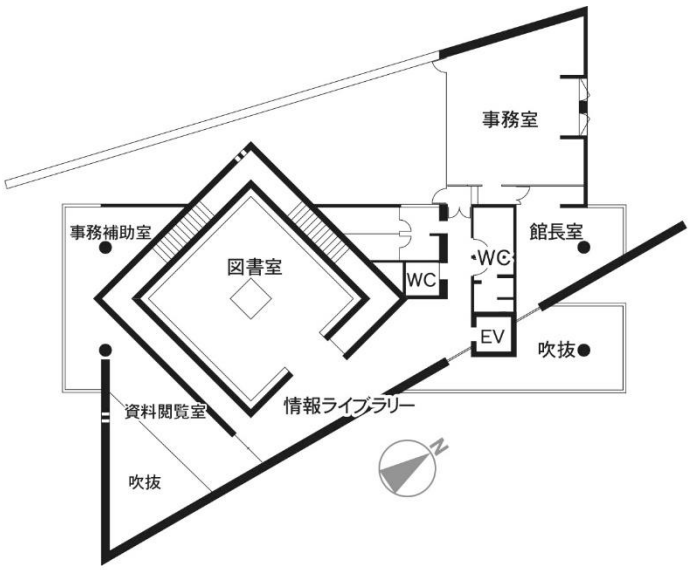


B1階

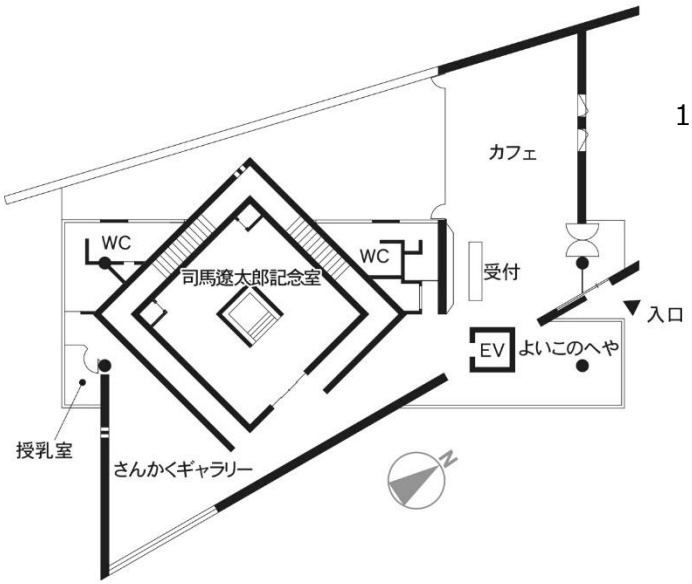


南　館

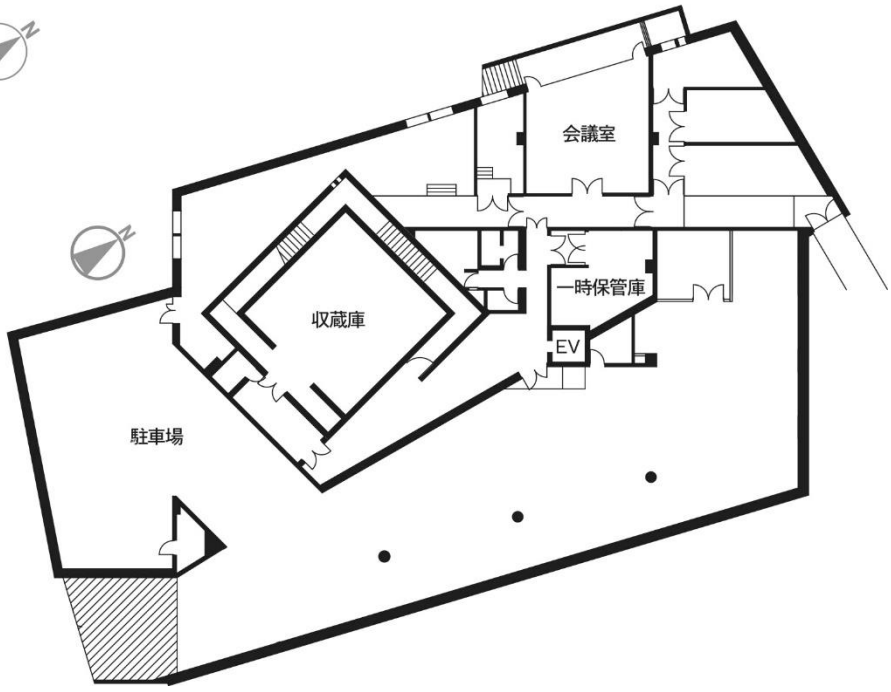
２階


事務室
事務補助室
図書室
WC
WC
館長室
EV
吹抜
資料閲覧室
情報ライブラリー
吹抜

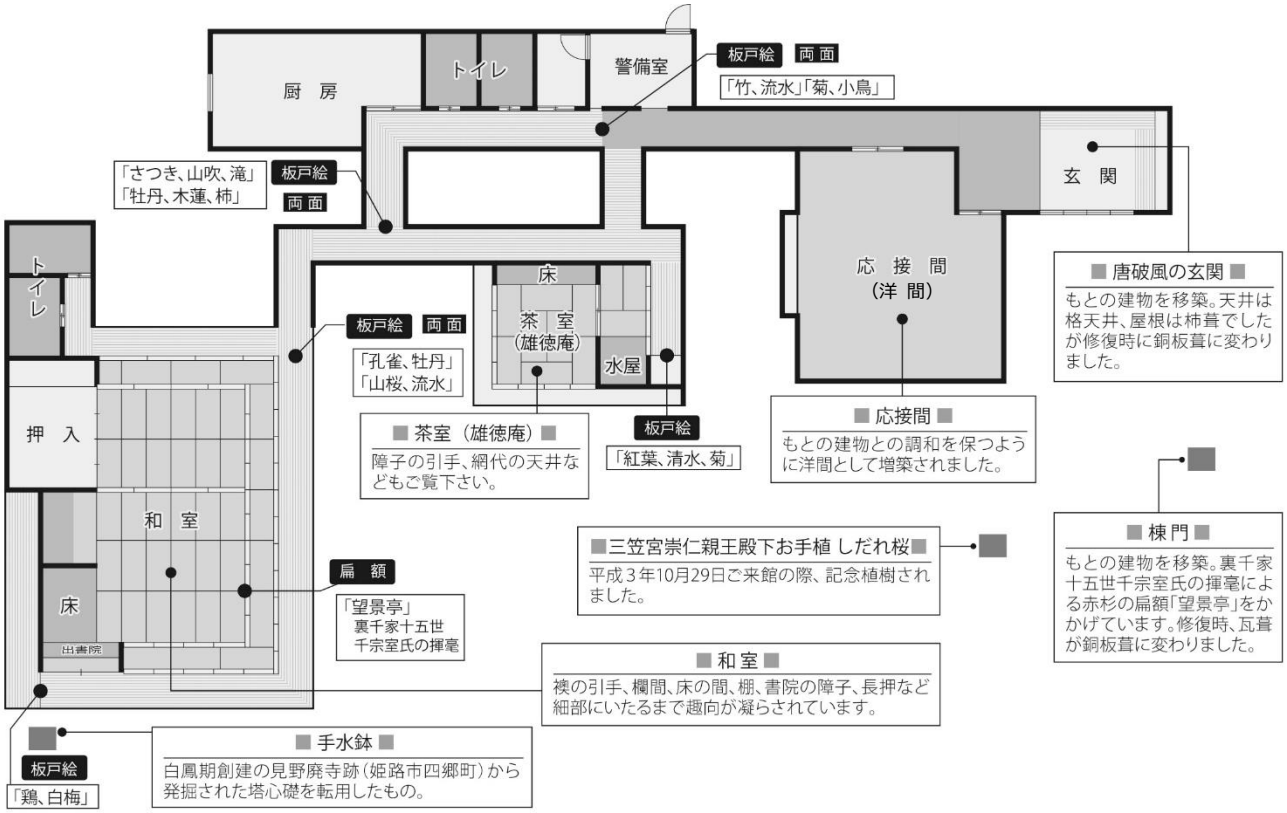
１階


カフェ
WC
WC
司馬遼太郎記念室
受付
入口
EV
よいこのへや
授乳室
さんかくギャラリー

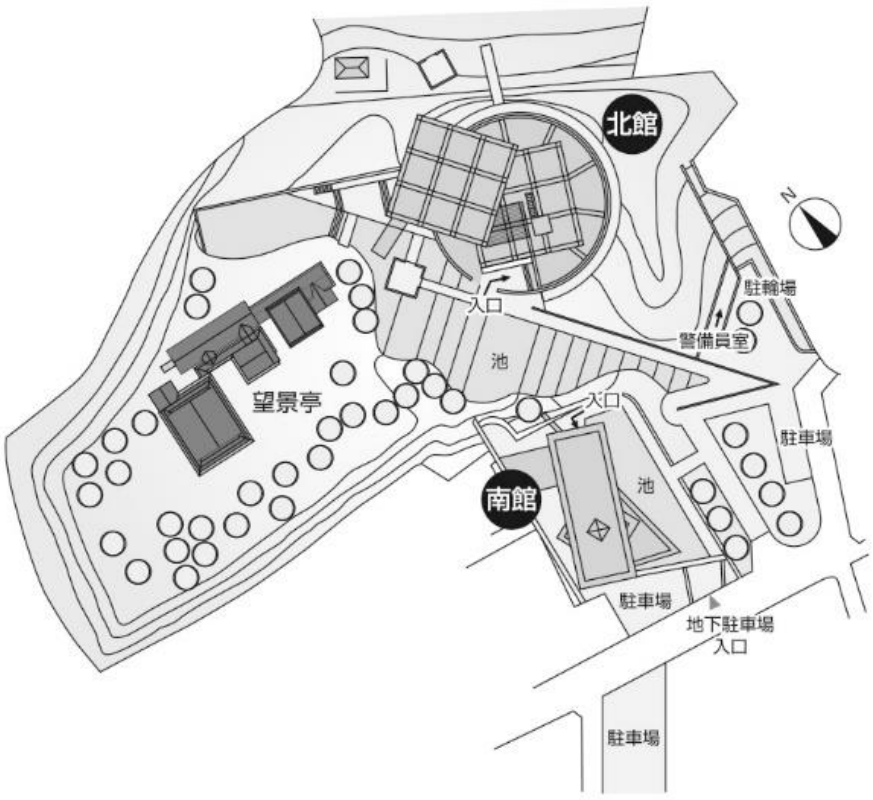
Ｂ１階


会議室
一時保管庫
収蔵庫
EV
駐車場

望　景　亭


厨　房
トイレ
警備室
板戸絵　両面
「竹、流水」「菊、小鳥」
玄　関
「さつき、山吹、滝」
「牡丹、木蓮、柿」
板戸絵
両面
トイレ
床
茶　室
（雄徳庵）
水屋
応　接　間
（洋　間）
■ 唐破風の玄関 ■
もとの建物を移築。天井は格天井、屋根は柿葺でしたが修復時に銅板葺に変わりました。
板戸絵　両面
「孔雀、牡丹」
「山桜、流水」
押　入
■ 茶室（雄徳庵）■
障子の引手、網代の天井などもご覧下さい。
板戸絵
「紅葉、清水、菊」
■ 応接間 ■
もとの建物との調和を保つように洋間として増築されました。
和　室
■三笠宮崇仁親王殿下お手植 しだれ桜■
平成３年10月29日ご来館の際、記念植樹されました。
■ 棟門 ■
もとの建物を移築。裏千家十五世千宗室氏の揮毫による赤杉の扁額「望景亭」をかかげています。修復時、瓦葺が銅板葺に変わりました。
床
扁　額
「望景亭」
裏千家十五世
千宗室氏の揮毫
出書院
■ 和室 ■
襖の引手、欄間、床の間、棚、書院の障子、長押など細部にいたるまで趣向が凝らされています。
板戸絵
「鶏、白梅」
■ 手水鉢 ■
白鳳期創建の見野廃寺跡（姫路市四郷町）から発掘された塔心礎を転用したもの。

配　置　図


北館
N
駐輪場
入口
警備員室
池
望景亭
入口
駐車場
南館
池
駐車場
地下駐車場
入口
駐車場

日 誌 抄

4月3日　新型コロナウイルス感染症拡大予防のため3月5日から開始した臨時休館を5月10日まで延長する。
特別展「猫のダヤン35周年　ダヤンと不思議な劇場　池田あきこ原画展」（予定会期4月18日～6月7日　以降、「池田あきこ原画展」）の開幕を、5月12日に延期する。

4月7日　新型コロナウイルス感染症拡大予防のため兵庫県に緊急事態宣言が発出される。
5月27日に予定していた第一回友の会見学研修会を中止とする。

4月10日　年間講座の開講を当面延期する。

4月13日　新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、6月末までイベントを自粛することが決定。
本年度の「夏季大学」・「世界に一つの絵本づくり」を中止とする。

4月15日　在宅勤務シフトによる業務を開始する（5月31日まで）。

4月22日　「池田あきこ原画展」の中止を発表する。

4月28日　臨時休館を5月31日まで延長する。

5月4日　緊急事態宣言が全国一斉に5月31日まで延長される。

5月21日　兵庫県で緊急事態宣言が解除される。

6月2日　開館再開。

7月10日　特別展「宮西達也Ｎｅｗワンダーランド展　―ヘンテコリンな絵本の仲間たち」（以下「宮西展」）開幕。サプライズイベント開催（7月11日まで）。

8月7日　司馬遼太郎メモリアル・デー開催

8月19日　宮西達也氏スペシャルイベント開催（8月21日まで）。

9月16日　第33回和辻哲郎文化賞（以下、和辻賞）一般部門第1回推薦会開催。

9月28日　和辻賞学術部門第1回推薦会開催。

10月3日　特別展「樋口一葉　その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく」（以下、「一葉展」）開幕。

10月11日　「一葉展」展示解説会を開催。

10月17日　「一葉展」記念講演会開催。講師は、山本欣司氏（武庫川女子大学教授）。

10月31日　「一葉展」朗読会開催。出演は、伊藤恵美氏、田中洋子氏、松本由美氏、水田千波氏（音訳ボランティアグループ・サークルさえずり所属）。

11月7日　榊原家サミット関係者が見学のため来館。

11月9日　和辻賞一般部門第2回推薦会開催。

11月10日　ボランティア研修会を実施。

11月12日　和辻賞学術部門第2回推薦会開催。

11月15日　第1回友の会研修講座「一葉日記朗読会」を実施。出演は、小林みね子氏（劇団プロデュース・F所属）。

12月3日　和辻賞一般部門第3回推薦会開催。

12月5日　企画展「没後60年　岸上大作展」（以下、「岸上大作展」）開幕。オープニング記念講演会「血と雨の歌―没後六十年を迎えた岸上大作」開催。講師は、歌人・福島泰樹氏。

12月6日　和辻賞学術部門第3回推薦会開催。

1月11日　和辻賞一般部門選考委員会開催（於東京）。

1月12日　和辻賞学術部門選考委員会開催（於東京、オンライン）。

1月13日　緊急事態宣言が兵庫県に発出される（通常通り開館）。

1月23日　第6回藤原正彦エッセイコンクール表彰式を無観客でオンラインにて開催。

2月2日　緊急事態宣言が兵庫県に対して3月7日まで延期される。

2月5日　市長定例記者会見で、第33回和辻哲郎文化賞受賞作を発表。

2月14日　「岸上大作展」展示解説会を開催。

2月18日　如月まつり実施（2月19日まで）。感染症対策のため古本市は中止。

2月28日　第2回友の会研修講座「昭和の名女優浪花千栄子と上方芸能の歴史」実施。講師は、上方芸能研究者・古川綾子氏。

3月1日　全国文学館協議会共同展示「3.11 文学館からのメッセージ」としてパネル展「文人たちと震災」、島内治彦写真展「折々の姫路文学館」開幕。（3月31日まで）

3月7日　和辻哲郎文化賞授賞式開催（於イーグレひめじ）。無観客で実施しオンラインにて公開。

3月14日　「岸上大作展」記念イベント舞台「辺境―どこまでいっても」開催。

3月16日　ボランティア総会・交流会　開催。

3月19日　姫路城周辺連絡会議。

3月25日　　駐大阪・神戸米国総領事来館。
3月27日　　ＫＯＴＯＢＡまつり　人形劇「でこぼこげきじょう」（人形劇団京芸）開催。

姫路文学館友の会

姫路文学館友の会は、文学を愛する市民が一堂に集い、さまざまな分野における学習の場に参加しながら会員相互の親睦会を深め、会員各々が自己の向上をはかっていくための組織として平成３年 10 月１日に発足した。

１　役　員（令和３年５月 25 日現在）

会　　長	家永　善文				
副 会 長	髙梨　博信				
常務理事	北野　充				
理　　事	石川　誠	菅原　美文	尾上　國子	黒田美江子	村上早百合
	赤松　隆子	佐野奈緒美			
監　　事	藤原　龍雄	三木　総子			

２　会員数（令和３年３月末日現在）

- 正 会 員（ボランティア会員を含む）　354 人
  （年会費 2,000 円×338 人、1,000 円／下半期×16 人）
- 家族会員（年会費 1,000 円）　21 人
- 学生会員（年会費 1,000 円）　3 人
- 賛助会員（法人・団体　年会費 50,000 円）　4 社

３　令和２年度事業

(1) 総会

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。会員に事業報告・事業計画書を配布。

(2) 各種講座

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため上半期は中止。

①　「万葉集」巻九を読む	（全５回	講師：大森　亮尚　受講者　66 人）
②　「古事記」から二・二六事件まで　時空を旅する	（全５回	講師：菅原　美文　受講者　62 人）
③　珠玉の名作を読む（大正・昭和戦前編）	（全５回	講師：森本　穫　　受講者　49 人）

○研修講座

「朗読で味わう樋口一葉の日記」	出演：小林みね子　（11 月 15 日　受講者 80 人）
「昭和の名女優浪花千栄子と上方芸能の歴史」	講師：古川　綾子　（２月 28 日　受講者 70 人）

(3) 見学研修会

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため実施せず。

(4) 主なボランティア活動

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため４月から 10 月の活動を中止。

① 郵便発送作業（3 回）
② 各講座・諸行事の受付（年間講座、司馬遼太郎メモリアル・デー）（26 回）
③ ワーキンググループ活動
・展示ガイドグループ
　勉強会（６回）

・おすすめ展示グループ（１回）
・おはなし会グループ
　全体会議（１回）
④ その他
・ボランティア全体会議

4　文学館グッズ販売事業

友の会では、姫路文学館オリジナルグッズを制作し販売しているほか、時宜に応じて姫路文学館にふさわしい物品を入荷し販売している。

オリジナルグッズ

	品　　名	価　格
絵葉書	資料図版（11 種）	各　７０
一筆箋	北館外観（1 種）	３００
	資料図版（2 種）	各３００
	イラスト（2 種）	各２００
メモ帳	イラスト（2 種）	各１００
ファイル	クリアファイル	３５０
その他	一筆便箋・メモ４点セット 革製ペンケース、ブックカバー、書籍等 （随時販売）	５００

令和２年度グッズ売上合計額　60,910 円

5　資料整理業務

平成 12 年度より、姫路市からの委託を受け、継続して行っている。姫路文学館が所蔵または新たに収集する資料について、文学館の方針に従って分類整理、情報検索システムへの登録等の業務を行うもの。

(1) 受託期間　　令和２年４月１日～令和３年３月 31 日

(2) 業務内容
① 購入・寄贈図書、その他文学館資料の整理、保管、保存。
② 図書データ等の資料データの作成。
③ 情報検索システムへの登録作業。
④ 資料整理全般に関わる一切の業務。
⑤ その他、上記業務に関わる人員の雇用とそれに伴う整理・保存用品および事務用品の購入等。

(3) 雇用者数　　２人

(4) 受託金額　　３，７８５，０００円

6　令和２年度決算（会計年度：令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

収　　入　　１２，４１７，４９８円（資料整理業務費 3,785,000 円含）
支　　出　　６，８０７，７３９円（資料整理業務費 3,785,000 円含）
翌年度繰越金　　５，６０９，７５９円

沿　革

昭和 58 年 8 月	文化都市を目指す戸谷松司市長の方針に基づいて、「姫路市立文学資料館」の構想生まれる。
60 年 1 月 28 日	建設構想推進委員会及び資料収集調査委員会が文学資料館基本構想を答申。
61 年 5 月 1 日	姫路市民文化協会内に文学資料館開設準備室が発足。
63 年 2 月 17 日	郷土の哲学者和辻哲郎の生誕 100 年を記念して文化賞を創設。
3 月 31 日	展示基本設計完了。
4 月 1 日	市民局の中に文学資料館開設準備室を設置。
平成元年 3 月 31 日	建築設計完了。
5 月 22 日	文学資料館の正式名称を「姫路文学館」に決定。
7 月 1 日	文学資料館開設準備室が市民局から教育委員会に移る。
9 月 9 日	起工式。
12 月 28 日	展示実施設計完了。
2 年 12 月 21 日	姫路文学館条例、姫路文学館条例施行規則、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則を制定。
12 月 28 日	建築工事完了。
3 年 1 月 31 日	展示工事完了。
3 月 27 日	竣工式。
4 月 1 日	開館。中西進氏、初代館長に就任。
6 月 28 日	兵庫県が創設した「第 1 回さわやか街づくり賞」建築部門を受賞。
7 月 11 日	建設省制定の「手づくり郷土賞」素材部門を受賞。
10 月 1 日	姫路文学館友の会発足。
4 年 3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
5 年 3 月 25 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
4 月 23 日	姫路文学館施設整備検討委員会が施設整備基本構想を答申（別館建設を提案）。
6 年 3 月 4 日	入館者 10 万人達成。
3 月 18 日	別館展示設計及び建築設計完了。
10 月 19 日	別館起工式。
7 年 10 月 31 日	別館建築工事完了。
8 年 3 月 18 日	別館展示工事完了。
3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。5 月 25 日施行。
4 月 1 日	姫路市教育委員会行政組織規則の改正、総務課、学芸課の 2 課制となる。 館の名称変更（本館を北館に、別館を南館に）。
5 月 24 日	南館竣工式。
5 月 25 日	南館開館。司馬遼太郎記念室を設置。
7 月 4 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。同日施行。
9 年 3 月 31 日	姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
5 月 31 日	中西進館長退任。
6 月 1 日	上田正昭氏、第 2 代館長に就任。
10 年 3 月 20 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
13 年 8 月 28 日	姫路文学館条例施行規則の改正。同日施行。
14 年 6 月 10 日	姫路文学館公式ホームページ開設。
17 年 2 月 25 日	和辻哲郎文化賞展示コーナーを設置。
19 年 3 月 28 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
20 年 7 月 23 日	博物館法第 10 条の規定による登録博物館となる。
21 年 8 月 7 日	望景亭が国登録有形文化財となる。
23 年 2 月 3 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。3 月 1 日施行。
26 年 3 月 31 日	上田正昭館長退任。
4 月 1 日	藤原正彦氏、第 3 代館長に就任。
27 年 6 月 23 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。7 月 1 日施行。
7 月 16 日	北館、南館の大規模改修工事及び展示更新制作開始。
28 年 6 月 24 日	姫路文学館条例の改正。7 月 30 日施行。
7 月 30 日	北館、南館のリニューアル開館。
29 年 3 月 29 日	姫路文学館条例の改正。7 月 1 日施行。
30 年 12 月 26 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
31 年 3 月 27 日	姫路文学館条例の改正。10 月 1 日施行。 姫路文学館条例施行規則の改正。10 月 1 日施行。
令和 2 年 3 月 5 日	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 31 日）。

条　例　規　則　集

○姫路文学館条例

平成2年12月21日
条例第32号

改正　平成４年３月26日条例第４号
平成８年３月26日条例第26号
平成９年３月31日条例第３号
平成28年６月24日条例第52号
平成29年３月28日条例第34号
平成31年３月27日条例第61号

（設置）

第１条　郷土ゆかりの文学者を顕彰するとともに、文学に関する市民の知識及び教養の高揚を図るため、姫路文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（施設の位置）

第２条　文学館の位置は、次のとおりとする。

姫路市山野井町84番地

（事業）

第３条　文学館は、第１条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

(1)　郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。

(2)　郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。

(3)　前２号に規定する作品、作者及び資料に関する調査及び研究を行うこと。

(4)　文学に関する講演会、講習会、講座等を開催し、及びその奨励を行うこと。

(5)　文学に関する研究書、解説書等を作成し、刊行すること。

(6)　文学及び学芸に関する集会並びに展示のために文学館の施設を提供すること。

(7)　前各号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

（職員）

第４条　文学館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

（観覧料）

第５条　文学館が展示する文学作品及び資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める額の観覧料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

２　前項の規定により特別展示観覧に係る観覧料を納付した者が、当該特別展示観覧の期間中において常設展示観覧をする場合にあっては、市長は、当該期間中において１回に限り、当該者の常設展示観覧に係る観覧料を徴収しないことができる。

（特別観覧許可及び特別観覧料）

第６条　文学館が保管し、又は展示する文学作品及び資料（以下「文学館資料」という。）を研究のために熟覧し、複写し、又は撮影しようとする者は、教育委員会の許可を受け、１点１回につき2,090円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）の範囲内で教育委員会が　規則で定める額の特別観覧料を納付しなければならない。

（占用使用許可及び占用使用料）

第７条　別表第２に掲げる文学館の施設を占用して使用しようとする者は、教育委員会の許可を受け、同表に定める占用使用料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

（使用の制限）

第８条　次の各号のいずれかに該当するときは、前２条の許可（以下「使用許可」という。）をしない。

(1)　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。

(2)　文学館の設置の目的に反する使用をし、又はそのおそれがあると認めるとき。

(3)　文学館の施設又は文学館資料を損傷するおそれがあるとき。

(4)　文学館の管理に支障があると認めるとき。

(5)　その他教育委員会が不適当と認めるとき。

（許可の条件）

第９条　教育委員会は、使用許可に際し、必要な条件を付すことができる。

（譲渡及び転貸の禁止）

第１０条　使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の変更等）

第１１条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用者に対して、その使用許可の変更若し

くは使用の停止を命じ、又はその使用許可を取り消すことができる。この場合において使用者に生じた損害については、教育委員会はその責めを負わない。

(1)　使用者が、この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可条件に違反して文学館の施設又は文学館資料を使用したとき、又は使用しようとするとき。

(2)　使用者が、偽りその他不正の手段により使用許可を受けたとき。

(3)　災害その他不可抗力によって使用させることができなくなったとき、又は使用させることが不適当と認められるとき。

(4)　前各号に定めるもののほか、教育委員会が、公用、保安又は管理上の都合により特に必要と認めるとき。

（観覧料等の減免）

第１２条　市長は、公益上必要と認めるときは、第５条第１項に規定する観覧料、第６条に規定する特別観覧料及び第７条に規定する占用使用料を減額し、又は免除することができる。

（観覧料等の還付）

第１３条　既納の観覧料、特別観覧料及び占用使用料は、還付しない。ただし、第11条第３号若しくは第４号に該当するとき、又は市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（特別の設備）

第１４条　使用者は、特別な設備をしようとするときは、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

２　教育委員会は、管理上必要と認めるときは、使用者の負担において必要な設備をさせることができる。

３　使用者は、前２項に規定する設備をしたときは、使用許可期間満了までにこれを撤去し、原状に復さなければならない。

（秩序維持）

第１５条　何人も、文学館において次に掲げる行為をしてはならない。

(1)　文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。

(3)　許可なくして展示された文学館資料に触れること。

(4)　許可なくして模写、模造、撮影等を行うこと。

(5)　許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為を行うこと。

(6)　許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。

(7)　所定の場所以外の場所において飲食し、喫煙し、その他火気を使用すること。

(8)　前各号に定めるもののほか、文学館の管理に支障がある行為をすること。

（入館の拒否、退館命令等）

第１６条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、文学館への入館を拒否し、退館を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(1)　前条の規定に違反する行為をし、又はしようとする者

(2)　前号に定めるもののほか、文学館の管理上の必要な指示に従わない者

（損害の賠償）

第１７条　文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失した者及び第14条第３項に規定する義務を履行しない者は、教育委員会の認定額の損害を賠償しなければならない。

（補則）

第１８条　この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附　則

この条例は、市長が告示で定める日から施行する。ただし、第７条から第14条まで及び別表第２の規定は、平成３年１月４日から施行する。

（平成３年３月14日告示第30号で平成３年４月１日から施行）

附　則（平成４年３月26日条例第４号）

この条例は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成８年３月26日条例第26号）

この条例は、平成８年５月25日から施行する。

附　則（平成９年３月31日条例第３号）

この条例は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成28年６月24日条例第52号）

この条例は、平成28年７月30日から施行する。ただし、第３条第１号及び第２号、第６条、第８条、第11条、第12条（「減額」を「減額し、」に改める部分に限る。）、第

15条から第17条まで並びに別表第２備考第３項の改正規定は、公布の日から施行する。

附　則（平成29年３月28日条例第34号）

この条例は、平成29年７月１日から施行する。

附　則（平成31年３月27日条例第61号）

この条例は、平成31年10月１日から施行する。

別表第１（第５条関係）

観覧料

区　分		金額（1人につき）	
		個人	20人以上の団体
常設展示観覧	一般	円 310	円 240
	大学生・高校生	210	160
	中学生・小学生	100	80
特別展示観覧		2,000円以内で教育委員会が定める額	

備考

１　常設展示観覧とは、文学館が平常的に展示する文学作品及び資料の観覧をいい、特別展示観覧とは、文学館が主催して特別に展示する文学作品及び資料の観覧をいう。

２　一般とは、大学生・高校生及び中学生・小学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第２（第７条関係）

施設占用使用料

使用時間／使用施設	1日 午前9時から午後5時まで	午前 午前9時から正午まで	午後 午後1時から午後5時まで
特別展示室	円 7,330	円 3,160	円 4,170
講堂	7,330	3,160	4,170
和室	7,330	3,160	4,170
茶室	5,190	2,130	3,160
洋間	7,330	3,160	4,170
さんかくギャラリー	7,330	3,160	4,170

備考

１　使用者が入場料又は入場料に類するものを徴収する場合における使用料は、使用区分に係る使用料の額に、当該使用料の10割に相当する額を加えた額とする。

２　特別展示室を展示の準備又は片付けのために使用するときの使用料は、使用区分に係る使用料の額（前項に該当するときは、その割増料金を加算した額）の５割相当額とする。

３　使用許可時間を超過し、又は時間を早めに使用する場合の超過時間に係る使用料は、所定の使用料（前各項のいずれかに該当するときは、当該各項により計算された額）を基礎として、それぞれの料金表の使用時間の区分ごとに１時間当たりの算出料金（使用料に定めのない時間帯にあたっては、当初使用許可を受けた時間区分に係る１時間当たりの算出料金）に超過時間を乗じた額の合計額とする。この場合において、超過時間の計算は、１時間未満のときはこれを１時間とし、１時間を超える場合で１時間に満たない端数時間があるときはその端数時間は１時間として計算する。

４　前項における使用料の算定において、算出した使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

○姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則

平成2年12月21日
規則第57号

改正　平成　5年 3月25日規則第10号
平成 8年 7月 4日規則第61号
平成 10年 3月20日規則第23号
平成 19年 3月28日規則第15号
平成 23年 2月 3日規則第６号
平成 27年 6月23日規則第60号
平成 29年12月19日規則第59号
平成 30年12月26日規則第60号

（趣旨）

第１条　この規則は、姫路文学館条例（平成２年姫路市

条例第32号。以下「条例」という。）第12条の規定による観覧料、特別観覧料及び占用使用料（以下「観覧料等」という。）の減免並びに条例第13条のただし書の規定による観覧料等の還付に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧料等の減免）

第２条　条例第12条の規定により、観覧料等を減免することができる場合及びその額は、次に定めるところによる。

(1)　療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は身体障害者手帳の交付を受けた者（以下「障害者」という。）及び当該障害者の介護者が観覧するとき　常設展示観覧料の全額及び特別展示観覧料の半額

(2)　市内に居住する65歳以上の者が観覧するとき　常設展示観覧料の全額

(3)　市内及び連携中枢都市圏構想推進要綱（平成26年８月25日付け総行市第200号総務省自治行政局長通知）に基づく連携協約市町の学校教育法（昭和22年法律第26号）第１条に規定する小学校、中学校，義務教育学校及び特別支援学校の生徒又は児童並びにその引率者が学校行事として観覧するとき　常設展示観覧料の全額

(4)　使用者が市と共同で占用使用するとき　占用使用料の５割に相当する額

(5)　市が使用するとき　占用使用料の全額

(6)　前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき　観覧料等の額のうち市長が相当と認める額

２　前項の規定により観覧料等の減免を受けようとする者は、前項第１号及び第２号の規定により減免を受けようとする者にあっては、当該減免事由を証する手帳等を提示し、同項第３号の規定により減免を受けようとする者にあっては、文学館観覧料等減免申請書を提出し、同項第４号又は第５号の規定により減免を受けようとする者にあっては、文学館施設占用使用許可申請書の該当欄にその旨を記載しなければならない。

（観覧料等の還付）

第３条　条例第13条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は次に定めるところによる。

(1)　条例第11条第３号又は第４号に該当するとき　既納観覧料等の全額

(2)　災害その他不可抗力による事由により使用できなかったとき　既納の占用使用料の全額

(3)　占用使用を中止しようとする者から次に掲げる期日までに正当な理由により使用中止届があった場合

ア　使用期日前２月までの場合　既納の占用使用料の８割に相当する額

イ　使用期日前１月までの場合　既納の占用使用料の５割に相当する額

２　前項の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、文学館観覧料等還付申請書を市長に提出しなければならない。

（補則）

第４条　この規則の運用に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成３年１月４日から施行する。

附　則（平成５年３月25日規則第10号）

この規則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成８年７月４日規則第61号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成10年３月20日規則第23号）

１　この規則は、平成10年４月１日から施行する。

２　この規則による改正後の姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則第３条第１項の規定は、この規則の施行の日以後に申請のあった使用許可に係る使用料の還付について適用し、同日前に申請のあった使用許可に係る使用料の還付については、なお従前の例による。

附　則（平成19年３月28日規則第15号）

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成23年２月３日規則第６号）

この規則は、平成23年３月１日から施行する。

附　則（平成27年６月23日規則第60号）

この規則は、平成27年７月１日から施行する。

附　則（平成29年12月19日規則第59号）

この規則は、平成30年4月１日から施行する。

附　則（平成30年12月26日規則第60号）

（施行期日）

１　この規則は、平成31年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　この規則による改正後の規定は、この規則の施行の日以後にされた申請に基づく使用許可に係る使用料、占用使用料又は特別展示室使用料（以下「使用料等」

という。）について適用し、同日前にされた申請に基づく使用許可に係る使用料等については、なお従前の例による。

○姫路文学館条例施行規則

平成２年12月21日
教委規則第19号

改正　平成13年８月28日教委規則第12号
平成31年３月27日教委規則第７号

（趣旨）

第１条　この規則は、姫路文学館条例（平成２年姫路市条例第32号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第２条　文学館の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。

２　前項の開館時間は、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる。

（休館日）

第３条　文学館の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1)　月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。）

(2)　休日の翌日（この日が土曜日又は日曜日若しくは休日である場合を除く。）

(3)　12月25日から翌年１月５日まで

（観覧料等の納付）

第４条　条例第５条に規定する観覧料、条例第６条に規定する特別観覧料及び条例第７条に規定する占用使用料は前納しなければならない。ただし、旅行業法（昭和27年法律第239号）第３条に規定する者で教育委員会が指定した者（以下「旅行業者」という。）が取り扱う観覧料、教育委員会が特別な事由があると認める特別観覧料及び国、地方公共団体又は公共的団体が使用する場合の占用使用料は、この限りでない。

２　第11条の規定により使用時間の延長の許可を受けて使用する場合の当該使用時間延長に係る占用使用料は、使用終了後直ちに納付しなければならない。

（観覧券の交付）

第５条　条例第５条の規定により観覧料を納付した者に対しては、納付と同時に観覧券を交付するものとする。

２　観覧券の種類は、次のとおりとする。

(1)　個人観覧券

(2)　団体観覧券

(3)　前売観覧券

３　文学館の観覧の取扱いを旅行業者に委任した者については、当該旅行業者が観覧券に代わるものとして発行するものの提出をもって条例第５条に規定する観覧料の納付があったものとみなす。

４　観覧券の交付は、閉館時間の30分前までとする。

（特別観覧許可の申請）

第６条　条例第６条の許可を受けようとする者は、あらかじめ特別観覧申請書を教育委員会へ提出しなければならない。

２　教育委員会は条例第６条の許可をしたときは、当該申請者に文学館資料特別観覧許可書を交付するものとする。

３　条例第６条の許可を受けた者は、熟覧、複写又は撮影の際、文学館資料特別観覧許可書を携帯し、文学館の職員の提示要求があったときは、直ちにこれに応じなければならない。

（特別観覧料）

第７条　条例第６条の規定により教育委員会が規則で定める特別観覧料は、別表のとおりとする。

（占用使用許可等の申請）

第８条　条例第７条の許可を受けようとする者は、あらかじめ文学館施設占用使用許可申請書（以下「申請書」という。）を教育委員会へ提出しなければならない。

２　前項の申請書は、使用しようとする日（以下「使用期日」という。）の属する月の３箇月前の月の初日から使用期日の３日前までに提出しなければならない。

３　前項の規定にかかわらず、特別展示室を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用期日の区分に応じ、当該各号に定める期間内に第１項の申請書を提出することができる。

(1)　使用期日が１月６日から３月31日である場合
当該使用期日の属する年の前々年の10月１日から当該使用期日の３日前まで

(2)　使用期日が４月１日から９月30日である場合　当該使用期日の属する年の前年の４月１日から当該使用期日の３日前まで

(3)　使用期日が10月１日から12月24日である場合　当該使用期日の属する年の前年の10月１日から当該使用期日の３日前まで

４　前２項の規定にかかわらず、教育委員会が特別の理由があると認めたときは、提出期間外においても提出された申請書を受理し、その都度許可することができる。

（占用使用許可書の交付）

第９条　教育委員会は、条例第７条の許可をしたときは、当該申請者に文学館施設占用使用許可書を交付するものとする。

２　条例第７条の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用の際使用許可書を携帯し、文学館の職員の提示要求があったときは、直ちにこれに応じなければならない。

（使用期間等）

第１０条　特別展示室の使用期間は、毎火曜日から起算して６日間を１単位とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときはこの限りでない。

（使用時間の延長）

第１１条　使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用時間を超過し、又は時間を早めに使用する必要があるときは、あらかじめ館長の許可を受けなければならない。

（使用中止届）

第１２条　占用使用を中止しようとする者は、文学館施設占用使用中止届に使用許可書を添えて教育委員会に提出しなければならない。

（収集の基準）

第１３条　条例第６条に規定する文学館資料（以下「文学館資料」という。）の収集は、次の各号に掲げる文学作品及び資料（以下「資料」という。）について行うものとする。

(1)　郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料

(2)　郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料

(3)　前２号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するために必要な資料

（収集の方法）

第１４条　資料の収集は、購入、受贈若しくは受託又は借用により行うものとする。

（資料の購入）

第１５条　資料を購入するときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値及び価格の妥当性等について学識経験者の意見を聴くものとする。

（資料の寄贈）

第１６条　文学館に資料を寄贈しようとする者は、教育委員会に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　教育委員会は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

３　教育委員会は、第１項の規定により寄贈を承諾した資料の引渡しを受けたときは、文学館資料受領書を寄贈者に交付するものとする。

４　前３項の規定にかかわらず、軽易なものについては、これらの規定を適用しないことができる。

（資料の寄託）

第１７条　文学館に資料を寄託しようとする者は、教育委員会に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　教育委員会は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

（資料の寄託の期間及び返還）

第１８条　資料の寄託の期間は、３年とする。ただし、寄託者との協議により、この期間を変更することができる。

２　寄託者は、寄託の期間中であっても、返還を希望する日の60日前に寄託資料返還申出書を提出して寄託した資料の返還を受けることができる。

（寄託を受けた資料の取扱い）

第１９条　教育委員会は、寄託者の同意を得て、寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）を展観若しくは特別観覧に供し、その複製物を公刊し、又は頒布することができる。

２　教育委員会は、寄託資料のうち補修が必要なものについては、寄託者の同意を得て補修することができる。

（資料の借用）

第２０条　教育委員会は、資料を借用するときは、その所有者に資料借用書を交付し、その控えを保管するものとする。

（資料の貸出し）

第２１条　文学館資料の貸出しを受けようとする者は、教育委員会に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　教育委員会は、前項の規定による申出者が次の各号のいずれかに該当し、かつ、貸出しの目的が文学、 歴史、芸術等に関する教養の高揚、調査研究等に資するとともに、当該貸出しが文学館の業務に支障がないと認められるときは、貸出しの承諾をすることができる。

(1)　国又は地方公共団体が設置する文学館、博物館又はこれらに類する施設の長

(2)　前号に規定する施設以外の施設で、博物館法（昭和26年法律第285号）第10条の規定による登録を受けた博物館又は同法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けた施設の長

(3)　公共性を有する報道機関が企画主催する文学展等の場合の主催者

(4)　前３号に掲げるもののほか、教育委員会が適当と認めた者

（貸出しの制限）

第２２条　教育委員会は、文学館資料のうち次の各号に掲げる資料については、貸出しをしない。

(1)　文学館資料の保存上、貸出しをすることが望ましくない資料

(2)　未整理の資料

(3)　寄贈者、寄託者等の文学館資料の提供者から、あらかじめ貸出しの制限を求められている資料

(4)　前３号に掲げるもののほか、教育委員会が特に貸出しを制限する必要があると認めた資料

（貸出しの期間）

第２３条　文学館資料の貸出し期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

（寄託資料の貸出し）

第２４条　教育委員会は、寄託者の同意を得て寄託資料の貸出しをすることができる。

２　寄託資料の貸出しについては、前３条の規定を準用する。

（文学館資料の翻刻）

第２５条　文学館資料の翻刻を行う者は、教育委員会に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　教育委員会は、前項の承諾に際して必要と認める条件を付すことができる。

（翻刻の制限）

第２６条　教育委員会は、文学館資料のうち次の各号に掲げる資料については、翻刻の承諾をしない。

(1)　未整理の資料

(2)　寄贈者、寄託者等の原資料の提供者から、あらかじめ翻刻の制限を求められている資料

(3)　前２号に掲げるもののほか、教育委員会が、特に翻刻を制限する必要があると認めた資料

（文学館資料の熟覧）

第２７条　文学館資料の熟覧は、次の各号に定めるところにより行うものとする。

(1)　熟覧は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2)　文学者の自筆の資料の熟覧については、複写等により二次資料が作成されている場合は、二次資料によって行うものとする。

（文学館資料の複写）

第２８条　文学館資料の複写は、次の各号に定めるところにより行うものとする。

(1)　複写は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2)　文学館資料を複写する者は、著作権法（昭和45年法律第48号）を遵守し、著作権に係る問題が生じた場合、すべての責めを負うものとする。

２　教育委員会は、前各号に定めるもののほか、複写に関し必要と認める条件を付すことができる。

（文学館資料の撮影）

第２９条　文学館資料の撮影については、前条の規定を準用する。

（熟覧、複写及び撮影の制限）

第３０条　前３条に定めるもののほか、文学館資料の熟覧、複写及び撮影については、第22条の規定を準用する。

（補則）

第３１条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成３年１月４日から施行する。

附　則（平成13年８月28日教委規則第12号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成31年３月27日教委規則第７号）

この規則は、平成31年10月１日から施行する。

別表（第７条関係）

特別観覧料

区　分		特別観覧料（1点1回につき）
複　写	電子複写機による	20円
撮　影	新規撮影　〔学術用〕	210円
	新規撮影　〔その他〕	2,090円
	フィルム貸出し・データ提供〔学術用〕	100円
	フィルム貸出し・データ提供〔その他〕	1,040円

○和辻哲郎文化賞規則

昭和63年５月17日
規則第29号

（目的）

第１条　この規則は、和辻哲郎の日本文化に関する幅広い活動を顕彰し、かつ市民の文化水準の向上に資するため、日本文化に関する優れた著作物に対し、和辻哲郎文化賞（以下「文化賞」という。）を贈与することを目的とする。

（贈与）

第２条　文化賞の贈与は、記章、賞状及び賞金とする。

２　文化賞の贈与は、毎年３月に行う。

（選考委員）

第３条　文化賞の選考は、文化賞選考委員（以下「選考委員」という。）の協議により決定する。

２　選考委員は、日本文化に関し、卓越した見識を有する者のうちから市長が委嘱する。

（選考基準）

第４条　文化賞の選考の対象となる著作物は、毎年９月１日を基準日とし、同日前１年以内に発表されたもので、次の各号に定めるものとする。

(1)　一般部門　日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので和辻の研究業績に共鳴する評論

(2)　学術部門　哲学、倫理学に関するもので高い水準に達した学術論文

（補則）

第５条　この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附　則

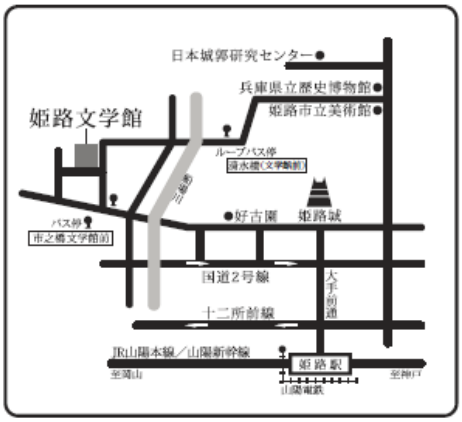
この規則は、昭和63年７月１日から施行する。

利 用 案 内

●開館時間　午前10時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
●休 館 日　毎週月曜日・休日の翌日（土・日・休日を除く）
　　年末年始

●観 覧 料

区　　分		金　　額	
		個　　人	20人以上の団　　体
常設展示	一　　般	310円	240円
	大学生・高校生	210円	160円
	中学生・小学生	100円	80円
特別展示は別料金となります。			



●アクセス　JR・山陽姫路駅前から
　　神姫バス９・10・17・18番のりばで乗車６分、
　　「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩４分
　　６番のりばで城周辺観光ループバス乗車10分、
　　「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩３分

●問い合わせ　姫路文学館
　　〒670-0021 姫路市山野井町84番地
　　TEL (079)293-8228　FAX (079)298-2533
　　e-mail：kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp
　　http://www.himejibungakukan.jp/

姫路文学館年報　第29号（令和２年度）

編集・発行　姫　路　文　学　館
〒670-0021　姫路市山野井町84番地
TEL (079) 293-8228
FAX (079) 298-2533

令和３年（2021年）９月１日発行